



千葉大学医学部同窓会報 第176号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みの は な 同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 みの は な 同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区玄鼻1-8-1 千葉大学医学部内 みの は な 同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : info@inohana.jp HP : http://www.inohana.jp/



平成29年度 みの は な 同窓会総会開催

平成29年度度のみの は な 同窓会総会が、平成29年6月10日(土)午後3時より、千葉大学附属図書館ライブラリーホールにおいて開催された。

白澤浩理事の司会により 済陽高穂会長が開会の辞を述べられた。会議に先立って、物故者129名の冥福を祈り黙祷を捧げた。済陽会長の挨拶に続いて、各議事について吉原俊雄副会長、白澤理事、幡野雅彦理事から説明があり、審議承認された。



みの は な 同窓会会則の改定があり、同窓会組織改変等、大幅な変更がなされた(議事要旨は33面に、役員・評議員名簿は34面に、会則改定の詳細は35面に掲載)。

総会に引き続き、平成29年度度のみの は な 同窓会賞表彰式、さらに守屋秀繁氏による特別講演が行われた(特別講演の内容は2面に掲載)。

会長挨拶



済陽高穂 (昭45)

みなさんこんにちは。一昨年からは会長を仰せつかっております、昭和45年卒の済陽です。よろしくお願います。今年の総会は大学の担当で、懇親会は千葉県みの は な 会の協力も得て盛大なプログラムが予定されています。またこれまでの学園祭やクラス会を含め同窓会関連行事が年ごとに盛会になりつつあり、大変うれしく感じています。

- 平成28年 秋の叙勲 旭日双光章 和田 勝 (日本大衛・昭40)
- 平成29年 春の叙勲 瑞宝中綬章 福田 康一郎(昭41)

祝 叙 勲

- 瑞宝小綬章 浅野 誠(昭48)
- 旭日双光章 伯野 中彦(昭37)
- 瑞宝双光章 堀江 達雄(昭29)

の里の横綱決定の審議委員のご協力をお願いするとともに、私も微力ではありますが、同窓会活動を通じて、母校の発展に尽くす所存でおります。今後ともよろしくお願い致します。

総会開催	1
会長挨拶	1
特別講演	2
就任挨拶	3
人事異動	11
叙勲感想	12
各地のみの は な 会	16
クラス会	17
地区のみの は な 会報	21
研修プログラム	23
研修医だより	23
鼎談	23
学内情報	24
課外活動団体だより	26
会員から	28
雑文雑談	28
著書紹介	29
議事要旨	30
オンライン会報	30
編集後記	32
	37
	38
	39
	40

紙面紹介

第22回(2017年度) みの は な 同窓会賞 受賞者決定

功労賞

守屋 秀繁 (千葉大学名誉教授、昭42) 「本邦における整形外科領域の発展への尽力と、日本相撲協会における功績」

ゐのはな同窓会総会

特別講演

「横綱審議委員(横審)を終わって」

千葉大学名誉教授

守屋 秀 繁 (昭42)



私が横審になれた理由は横審で人間国宝の歌舞伎役者、澤村田之助様が千葉大学医学部教授であるという事で来院され治療中に「横審になりませんか？無報酬ですが」との推薦を頂き委員になりました。今まで医者で横審になったのは東京大学医学部内科教授だった上田英雄先生(第5代委員長)だけで私が2人目です。

仕事としては年6場所後の月曜日の夕方に両国国技館2階の会議室での横綱審議委員会(必要があれば臨時の委員会も開催されます)と東京場所10日ぐらい前の「横綱審議委員会稽古総見」東京場所中に1日だけマス席に御招待される「横綱審議

証書を発行して、以後横綱を称号することを許可していましたが、1950年1月場所の3日目までに東富士、照国、羽黒山の3人が相次いで休場し、横綱を粗製乱造しているとの非難を浴びて吉田司家に代わるものとしてできたのが横綱審議委員会です。初代委員長には1950年4月に権威付けもあり元伯爵・貴族院議員酒井忠正氏が就任しました。私は第14代委員長です。横審の最大の役割は横綱を推薦すること、正しくは審判部が推薦するかどうか協議し、推薦すると決めることを理事会に上げ、可なら、横審に上げ、最終的な判断を求めます。現在では品格、力量が抜群であること、2場所続けて優勝、あるいはそれに準ずる成績を上げると推薦されるなどの内規があります。推薦されると多くはそのまま承認されますが、過去には1954年5月栃錦、1968年5月玉乃島、1969年11月北の富士、1994年9月貴乃花の4力士が横審で横綱昇進を見送られましたが、全員その後横綱になつていません。横審は横綱に引退勧告することも出来ません。かつて朝青龍が西麻

布で不祥事を起こした時に臨時横綱審議委員会が開催され、朝青龍に対する引退勧告書を作成し、理事長(武蔵川さん、元横綱三重ノ海)に引退勧告書を出そうとした時に、一瞬早く朝青龍が引退宣言をしたので、結局、引退勧告書は出さず、この引退勧告書はマスコミには出さないということで終わりました。更に日本相撲協会全般に関する提言をすることが出来ることと教えられています。私は整形外科医ですので、朝青龍が肘と腰を痛めた、モンゴルで泥を塗る治療をした時には横審でその解説をさせられました。一昨年1月の横審で内山前委員長が「横審委員は全員お忙しいばかりです。その中で一番暇そうなのは守屋さんなので守屋さんに後任の委員長をお願いしたい」との発言があり、当時の北の湖理事長から「委員長を選出する権限は横綱審議委員会にありますので私の方からは何も言えません」が守屋さんで良いんですか」と言われましたが、その通り決まりました。委員長就任は、日本相撲協会に対する最後のご恩返しだと思つて引き受けました。委員長は定例の横審の後に協会の広報部長と2人で

残されて記者会見をしなければなりません。白鵬のダメ押しや猫だましも話題に上がりました。1回目のマスコミ対応は多少上がつてしまい記者の質問に上手く答えられませんでした。2回目からはだいぶ慣れてスムーズに対応出来るようになりました。横綱審議委員は無報酬で、日当も無く、交通費も出ませんので、逆に本音でお話出来ます。印象に残っている委員は山田洋次監督、内館牧子女

た。昨年11月場所後のコメントとして「1月場所ので優勝しても横綱に推薦しない」などと言っていました。が、昨年は年間最多勝でしたが、国民的希望もあつたのでないかと思ひ横綱に推薦しました。稀勢の里は3月場所13日目に日馬富士との対戦で怪我をしてしまいました。稀勢の里は5月場所は10日までよく頑張つた、と思ひます。今後の大活躍を祈っています。

ゐのはな同窓会賞受賞候補者募集要項

第二三回(二〇一八年度)ゐのはな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

一、受賞対象者

① 社会貢献賞

② 功労賞

③ 表彰

① 社会貢献賞(三件以内)

② 功労賞

③ 表彰

④ 功労賞

⑤ 表彰

⑥ 功労賞

⑦ 表彰

⑧ 功労賞

⑨ 表彰

⑩ 功労賞

⑪ 表彰

⑫ 功労賞

⑬ 表彰

⑭ 功労賞

⑮ 表彰

⑯ 功労賞

⑰ 表彰

⑱ 功労賞

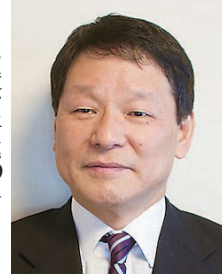
⑲ 表彰

⑳ 功労賞

本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学のゐのはな同窓会に多大の貢献をした者。盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。盾および賞金十万円を贈呈します。所定の申請用紙により、二〇一七年十二月一日から二〇一八年一月三十一日までに申請して下さい。選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。審査結果は二〇一八年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、ゐのはな同窓会報に掲載します。問い合わせおよび申請用紙請求先 千葉大学医学部内、ゐのはな同窓会事務局 申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

医学薬学府長就任挨拶

分子ウイルス学 白 澤 浩 (昭57)



この度、平成29年4月より千葉大学大学院医学薬学府長を拝命いたしました。

千葉大学大学院医学薬学府は、従来の大学院医学研究科と大学院薬学研究所を改組し、2001年に全国初の医学・薬学融合型大学院教育組織として設置されました。2011年には、薬学部の移転が完了し、亥鼻キャンパスは、医学部・薬学部・看護学部・真菌医学研究センター・医学部附属病院など、医療系の教育・研究施設が集積した医学薬学の大学院教育として、時代の最先端をゆく理想的なキャンパスとなっております。設置目的である全人的視野に立った医療従事者、医学・薬学両方の知識を持った専門家、先端的生命健康科学に精通する研究者等の養成を加速させるため、教育・研究に取組んでおり

ます。

現在、大学院医学薬学府の収容定員は医学部に匹敵する規模となっております。修士課程(医学専攻と総合薬品科学専攻)・収容定員154名)、4年博士課程(先端医学薬学専攻)・収容定員432名)「先端生命科学コース、免疫統御治療学コース、先端臨床医学薬学コース、がん先端治療学コース」(先端医学薬学国際プログラム)及び後期3年博士課程(先端創薬科学専攻)・収容定員45名)を擁し、理化学研究所・かずさDNA研究所・放射線医学総合研究所・千葉県がんセンター・国立環境研究所・医薬品医療機器総合機構(PMDA)の連携講座から優れた教授陣を迎え、医学研究院と薬学研究

院との緊密な連携の下、医学薬学の次世代を担う人材の育成に当たっております。2016年度からは予防医学専攻として、千葉大学、金沢大学、長崎大学との連携による3大学共同大学院「先進予防医学共同専攻」が4年博士課程に設置されま

教授就任挨拶

千葉大学大学院医学研究院

脳神経外科学 教授

岩 立 康 男 (昭58)



平成28年11月1日付で佐伯直勝前教授(現化学療法研究所附属病院長の後任として千葉大学大学院医学研究院脳神経外科教授を拝命いたしました。おのほな同窓会会員の皆さま、千葉大学の諸先生方をはじめ、多くの方々にご支援を賜り

ました。

医学薬学府は、複数の文部科学省支援プロジェクトにも採択されており、博士課程教育リーディングプログラム、治療学CHIBAイノベーション人材養成プ

ログラム、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの実施、大学院秋入学制度の充実、海外協定校とのダブルディグリー制度化(後期3年博士課程)等により、グローバル人材育成を高度なレベルで推進しております。今後も、おのほな同窓会会員の医学薬学府への御支援・御指導をお願い申し上げます。

興味のある悪性脳腫瘍の臨床と研究をスタートさせています。日中は手術、外来、病棟業務をこなし、日が暮れると当時崎山樹生先生が局長を務めておられた研究局にお邪魔させていただき、臨床の場で抱いた疑問点を題材に研究を進める毎日でした。化学療法部の藤本修一先生のもとでアポトリーシスをフローサイトメトリで検出する基礎研究に取り組み、膠芽腫におけるP53遺伝子変異と抗がん剤感受性との関連を報告することができました。また1993年からは病理部長だった田川雅敏先生のご指導のもと、現浜松医科大学脳神経外科教授の難波宏樹先生とともに遺伝子治療の基礎研究を開始いたしました。ラット脳腫瘍モデルとMRIによる評価システムを確立し、薬剤感受性因子であるHerpes Simplex Virus thymidine kinase (HSVtk) 遺伝子導入と抗ウイルス剤による自殺遺伝子療法、インターロイキン-2(IL-2)やIL-12、IL-23などのサイトカイン遺伝子導入による免疫遺伝子治療を経験したことで、脳腫瘍の免疫学的治療が私のライフワークとなっております。

1995年からは、千葉大学脳神経外科に戻り、主に脳腫瘍の手術や化学療法を担当させていただくとともに、それと並行する形で脳腫瘍の基礎研究を行い、また大学院生の指導を行っています。基礎研究は、遺伝子生化学教室、放射線医学総合研究所(放医研)の重粒子医学センター病院、放医研分子イメージングセンターなど諸先生方のご支援をいただきながら、脳腫瘍のプロテオミクス解析、血清自己抗体を用いた脳腫瘍の超早期診断法、重粒子線治療の作用メカニズム、悪性脳腫瘍に対する腫瘍融解ウイルス療法などを行ってまいりました。現在も、千葉大学生命情報科学の田村裕先生や放医研との共同で、ナノキャリアであるICGリポソームを用いたサイトカインの局所送達によって抗腫瘍免疫を有効に発動させる免疫学的治療の臨床開発を目指しています。当教室は1971年の開設以来、2代目山浦晶教授、3代目佐伯直勝教授と引き継がれ、この間、一貫して「患者を最優先に考える」医師を育成してまいりました。私もこの素晴らしい伝統を引き継ぎ、最高水準の脳外科医療を提供するとともに、千葉大オリエントナルの診断

法・治療法の開発を目指して、他領域の専門家からのご指導をいただきながら診療・研究に取り組んでいきたいと思っております。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

人事異動

- 准教授 眼科学 馬場 隆之 (東京医歯大・平9) (眼科講師より)
- 腫瘍内科 新井 誠人 (消化器内科講師より)
- 講師 腎臓内科学 相澤 昌史 (東武練馬クリニックより)
- 他大学教授 国際医療福祉大学 老年病学 浦野 友彦(平6)
- 産婦人科学 田中 宏一(平6)
- 帝京大学とは総合医療センター 整形外科 村田 泰章(平5)
- 病院長 千葉県がんセンター 山口 武人(昭56)
- 千葉県精神科医療センター 深見 悟郎(平7)

千葉大学大学院医学研究院

消化器内科学 教授

加藤 直也 (昭61)



平成29年4月1日付で横須賀前消化器・腎臓内科学教授(現地域医療機能推進機構JCHO船橋中央病院長)の後任として、新たに腎臓内科学を独立させた千葉大学大学院医学研究院消化器内科学教授を拝命致しました。ゐのはな同窓会員の皆さま、千葉大学、東京大学の諸先生方をはじめ、多くの方々にご支援を賜りましたことを、この場を借りて心より御礼申し上げます。

私は昭和61年に千葉大学医学部を卒業後、故奥田邦雄教授が主宰されていた千葉大学医学部第一内科(現在の消化器内科)に入局しました。入局後は大学および千葉県立佐原病院にて消化器内科学一般を学び、平成元年に、故大藤正雄教授のもと、小俣政男講師(前東京大学大学院医学系研究科消化

器内科学教授、現地方独立行政法人山梨県立病院機構理事長、千葉大学医学部第一内科同門会長)が主宰されていた第二研究室にて、横須賀助教、今関文夫助教(現千葉大学総合安全管理機構)らのご指導により、ちょうど発見されたC型肝炎ウイルスの基礎研究、またC型肝炎ウイルス発見前は非A非B型肝炎と言われていたC型肝炎の臨床研究に従事し、学位を取得しました。国立横浜東病院への二次出張の後、国立がんセンター研究所ウイルス部の下野邦忠部長(元京都大学ウイルス研究部長、現国立国際医療研究センター特任部長)のもとでC型肝炎ウイルスの基礎研究に携わり、その後の消化器内科学分野の基礎研究の礎となる多くの分子生物学的手法を学びました。平成4年に千葉大学医学部講師から東京大学医学部教授となられた私の恩師である小俣政男先生が主宰する第二内科後の消化器内科)に平成5年に入局し、現在までC型肝炎のみなら

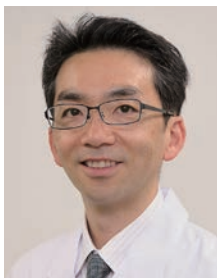
ずB型肝炎、肝硬変、肝癌の臨床、また、多くの仲間たちとともに消化器病の基礎研究に携ってまいりました。平成20年には東京大学医学研究所に異動し、准教授として疾患制御ゲノム医学ユニット、その後、先端ゲノム医学分野を主宰し、責任者として非MDに対する橋渡し研究(Translational research)教育を行うと共に、ゲノム情報を活用して肝臓感受性遺伝子を同定、現在も引き続き肝臓癌抑制、肝臓治療への臨床展開を模索しております。私の中のキャリアとして、東京大学では千葉大学とはまた異なる医学部や附属研究所の様子を見せて頂きました。研究ではC型肝炎ウイルスが発見されてからほとんどの患者でウイルス駆除が可能になるまで、すなわちC型肝炎ウイルスのゆりかごから墓場までをリアルタイムで経験させて頂きました。また、教室運営という観点からは小俣政男教授が東京大学消化器内科を立ち上げてから軌道に乗せるまでを傍らで勉強させて頂きました。これらのことは現在の自分にとって、大変に有意義な体験であったと感謝しております。消化器内科は、若くして人の

命を奪う癌の原因の半数以上を受け持つ分野です。外科とも緊密に連携し、患者ファーストの視点で難治癌に挑み、すべては患者さんの幸せのためにという謙虚な気持ちを忘れず、最先端の診療、臨床につながる研究、そしてPhysician Scientistを育成する教育に邁進してまいり所存です。ゐのはな同窓会員の皆さまには、今後ともご指導、ご鞭撻、また、ご支援を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

千葉大学大学院医学研究院

腎臓内科学 教授

浅沼 克彦 (順天堂大・平7)



この度、平成29年5月1日付で千葉大学大学院医学研究院腎臓内科学教授を拝命いたしました浅沼克彦です。腎臓内科は、第一内科から消化器・腎臓内科へ、そして今回腎臓内科が分かれました。私が初代教授となりま

す。私は、順天堂大学医学部を卒業し、虎の門病院で内科研修医を3年間行なった後、IlgA腎症研究で有名な順天堂大学腎臓内科学講座(富野康日己教授)の大学院では、IlgA腎症ではなく、

究、そしてPhysician Scientistを育成する教育に邁進してまいり所存です。ゐのはな同窓会員の皆さまには、今後ともご指導、ご鞭撻、また、ご支援を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

これまで一貫して私の研究テーマとなる「糸球体足細胞(ポドサイト)障害のメカニズムの解明」の研究を開始しました。ポドサイトの研究を行うにあたり、順天堂大学生化学第二講座(木南英紀教授)で分子生物学的手法を学ぶだけでなく、その当時、酵母で盛んに行われていたオートファジー研究に触れることができました。大学院卒業後、ポドサイトの細胞培養系を確立した、Peter Mundel教授の研究室(Albert Einstein College of Medicine)のあるニューヨーク・ブロンクスへ留学いたしました。留学最後の年には、研究室の引越に伴い、マンハッタンにあるMount Sinai School of Medicineへ移動し、マンハ

ッタンを満喫することができました。帰国後は、順天堂大学へ戻り、救急科へ出向した後、腎臓内科で病棟医・病棟グループ長・病棟医長を経験し、平成25年に京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンターへ異動いたしました。メディカルイノベーションセンターは、産学共同連携のための組織で、慢性腎臓病に対する創薬のための基礎研究を行いました。その間は、京都大学腎臓内科・柳田素子教授の御高配により、腎臓内科で臨床業務・腎生検検査の診断業務を継続しました。腎臓内科学は、腎炎・ネフローゼ症候群を含む慢性腎臓病、急性腎障害、慢性腎不全、腎代替療法を診療いたしますが、それぞれの疾患の原因となる病態は多岐にわたり、他診療科との連携が不可欠な診療科です。私たち腎臓内科医の使命の一つは、患者さんが、腎機能が悪いために他診療科での診療・治療が不十分になることを避けることです。他診療科の先生方と密に連携を取りながら腎疾患患者さんの診療にあたりたいと思います。昨年度より腎臓内科診療は休止しておりましたが、6月1日より 医局員4名と共に外来診療を、そして入院患者さんの受け入れを順次再開しております。全てがゼロからのスタートではありますが、先生方からの要望に応えられるように努力をしていきたいと考えております。千葉県は、全国道府県で人口6位ですが、慢性腎臓病患者数に比べ腎臓専門医は他県と比べ極端に少なく、千葉県でより良い慢性腎臓病診療を行う上で専門医の育成が重要課題です。そのためには、魅力的な卒前臨床・研修医教育を行いたいと思います。研究では、学内で異分野融合を行い、千葉大学だからできたと言える研究を行い、「エビデンスを創出できる治療学研究医」の輩出を目標にしたいと思っております。そして最終的には、慢性腎臓病患者さんの健康寿命の延長を実現していきたいと考えています。とはいえ、私は、浅学非才の身です。これから、ゐのはな同窓会の皆様の一層のご指導・ご鞭撻をいただきたく、何卒、宜しく申し上げます。



千葉大学大学院医学研究院

イノベーション再生医学 教授

江藤 浩之 (山梨医大・平2)



この度、医学研究院先端研究部門に新設されたイノベーション治療学講座イノベーション再生医学をお預かりすることになりました。江藤と申します。

この素晴らしい新教室の責任者としてご選任いただいたのは約1年前でございます。また、京都大学iPSC細胞研究所とのクロスアポイントメント教員での採用をお願い上げましたこと。から大学間の契約に時間を要し、昨年(平成28年)10月から正式に千葉大学大学院医学研究院の一員に加えていただきました。

教室自体は、昨年の5月から高山直也講師が常勤し、順調に研究体制を整備してきております。今年度は、細胞治療内科学の横手幸太郎教授が代表の疾患iPSC細胞を用いた病態解明に関するAMEDの研究費を獲

得できました。このようなチャンスをいただきましたことから、私どもの教室の研究対象の一つであるiPSC細胞の培養技術、病態解析技術を共有することで医学研究院の先生方の推進する病態解明、創薬研究に今後大いに貢献したいと考えています。

私は山梨医科大学出身です。循環器内科医としてのトレーニング時代、現千葉大学副学長、理事の中谷晴昭先生(前薬理学教授)にお世話になり学位を取得しました。私どものイノベーション再生医学と同じ医学部本館3階にある薬理学教室の一室で寝袋に潜り込んで寝ていた頃をいつも大学に来るたびに思い出します。その頃にお世話になった同窓の先生方(旧第三内科、循環器内科や整形外科の大学院生)にも最近お会いしてお互い歳を経たことを語り合いました。こうして、千葉大学に戻ってきたことに深い感謝と喜びを感じております。学位取得後は、帝京大学病院、米国スクリッ

ス研究所、東京大学医科学研究所勤務を経て、平成23年に京都大学iPSC細胞研究所 臨床応用研究部門の教授に就任し、同研究所の副所長を兼務しています(副所長は、来春には退任予定です)。今後、イノベーション再生医学教室の使命である革新的な思考と実践力を発揮

国際医療福祉大学医学部

循環器内科 教授

永井 敏雄 (昭60)



できる人材の育成を通じて千葉大学再生医療研究センターの発展、イノベーション治療の推進に尽力する所存です。最後になりますが、会員の皆様には、今後共、さらなるご支援ご鞭撻をお願い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

この度平成29年4月1日付けで、国際医療福祉大学医学部循環器内科の教授を拝命いたしました。私は、昭和60年に千葉大学医学部を卒業し、千葉大学医学部第三内科(稲垣義明教授)に入局しました。千葉大学医学部附属病院と関連病院で臨床研修を行った後、稲垣義明教授、斉藤俊弘先生に臨床研究に関してご教授頂きました。また、その間心臓カテーテル検査治療では竹田賢先生に多くの御指導

大学医学部に赴任することになりました。国際医療福祉大学は栃木県大田原市に本部がありますが、平成28年に成田市に看護学部と保険医療学部が新設されたのを皮切りに平成29年4月に同市に医学部が新設され、医学部1年生の授業が始まっています。医学部附属病院は、平成32年4月に成田市郊外に開設される予定です。国際医療福祉大学医学部は、医学教育に力をいれており、カリキュラム編成や評価を担う教育専任教員からなる医学教育統括センターが整備されています。また、学生の7人に1人は

留学生で、多くの科目で英語による授業が実施され、それぞれ、学生が主体性を持って参加できるアクティブラーニングを採用していますので、国際性豊かな学習環境です。浅学の身ではございますが、新たな一歩を踏み出した医学部の診療・研究・教育の発展のために尽力いたす所存です。これまでお世話になりました先生方に感謝申し上げます。一方、今後とも千葉大学のはな同窓会の皆様の一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

千葉大学で第一例目の同種骨髄移植が行われたのを目の当たりにし、同種移植療法に素晴らしい未来があると感じて血液内科医を志しました。帰国後、同種移植療法をさらに研修するため、1年間有効の米国医師免許を取得し、29歳の時に米国シアトルのFred Hutchinson Cancer Research Centerに留学致しました。同センターは世界有数の移植センターであり、当時年間500例もの造血幹細胞移植が行われていました。私は世界中からいらした多くの移植患者様を主治医として担当させて頂き、素晴らしい経験を積ませて頂きました。帰国後は千葉大学大学院細胞治療内科学に入学し、千葉大学前学長齋藤康教授、前輸血部長浅井隆善先生、血液グループ長王伯銘先生のご指導の下、骨髄異形成症候群における好中球機能異常の解明に取り組み、新たな機序を解明致しました。さらに齋藤康教授の遺伝子制御学教室にてCTLA-4の発現調節機構とT細胞抑制シグナルの機序の解明に取り組み、学位を取得致しました。その後一貫して造血幹細胞移植療法等の臨床研究、多発性骨髄腫やクロー・深瀬症候群等の形質細

国際医療福祉大学医学部

血液内科学 主任教授

中世古 知 昭 (昭63)



私はこの度成田市に開校致しました国際医療福祉大学医学部血液内科学講座主任教授を拝命し、平成29年4月1日に着任致しました。私は昭和63年に千葉大学

医学部を卒業し、故吉田尚教授が主催されていた第二内科に入局致しました。大学院と国保旭中央病院で内科研修を行った後、第二内科に帰局し血液研究室に所属しました。私が医学部学生であった1980年代は急性白血病をはじめとする血液疾患の治療成績は非常に不良でしたが、医学部5年生である1986年に

千葉大学で第一例目の同種骨髄移植が行われたのを目の当たりにし、同種移植療法に素晴らしい未来があると感じて血液内科医を志しました。帰国後、同種移植療法をさらに研修するため、1年間有効の米国医師免許を取得し、29歳の時に米国シアトルのFred Hutchinson Cancer Research Centerに留学致しました。同センターは世界有数の移植センターであり、当時年間500例もの造血幹細胞移植が行われていました。私は世界中からいらした多くの移植患者様を主治医として担当させて頂き、素晴らしい経験を積ませて頂きました。帰国後は千葉大学大学院細胞治療内科学に入学し、千葉大学前学長齋藤康教授、前輸血部長浅井隆善先生、血液グループ長王伯銘先生のご指導の下、骨髄異形成症候群における好中球機能異常の解明に取り組み、新たな機序を解明致しました。さらに齋藤康教授の遺伝子制御学教室にてCTLA-4の発現調節機構とT細胞抑制シグナルの機序の解明に取り組み、学位を取得致しました。その後一貫して造血幹細胞移植療法等の臨床研究、多発性骨髄腫やクロー・深瀬症候群等の形質細

胞腫瘍の発症機構の解明に取り組んで参りました。平成21年に故西村美樹先生の後任として千葉大学医学部附属病院血液内科科長・診療教授に就任し、細胞治療内科学横手幸太郎教授にご指導頂き、平成29年3月まで務めさせていただきました。この間、極めて有効な分子標的薬の臨床応用や画期的な移植法の開発により血液疾患の治療成績は大幅に向上しました。千葉大学血液内科も多くの移植症例数を誇る国内有数の施設に発展しています。

さて、国際医療福祉大学医学部設立の大きな目的は、国際的に活躍する医師を育成するということであります。そのため一学年あたり20人の留学生を受け入れること、授業の大半をactive learningとして英語で行うこと、などが大きな柱となつていきます。すでに今年4月に第一期生を迎えておりますが、いきいきと勉学に励んでおります。附属病院は2020年に成田空港脇に開院致します。それまでの間、私は前千葉大学医学部附属病院長宮崎勝教授が病院長を務めである国際医療福祉大学三田病院に勤務しております。

今後は、新たな目標に向

かつてチャレンジするとともに、千葉大学と力を合わせて、臨床研究、基礎研究に邁進する所存で御座いま

国際医療福祉大学医学部

形成外科 主任教授

松崎 恭一 (平元)



平成29年4月1日付けで国際医療福祉大学医学部形成外科主任教授を拝命いたしました。私は形成外科医としての道を歩むため、平成元年の卒業時に形成外科が開設されていなかった本学を離れ、聖マリアナ医科大学形成外科教室に入局しました。同教室は新潟大学耳鼻咽喉科助教授から初代主任教授として赴任された荻野洋一先生によって1973年に設立されました。形成外科が医療法による一般標榜科として認可された1975年以前から診療が行われていた全国でも数少ない医療機関の一つでした。形成外科教室は他科に比べてごんまりと

す。今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

した施設が多い中で、同教室はお二人の教授とお二人の助教授が専門分野の第一線で活躍され、学ぶうえで大変恵まれた環境でした。荻野洋一主任教授から小耳症、唇裂・口蓋裂などの先天異常、石田寛友教授から手の外科とマイクロサージャリー、酒井成身助教授から乳房再建と顔面の形成外科、熊谷憲夫助教授から熱傷と頭頸部腫瘍再建等を基本の手ほどきから専門手技まで広く深く習得することができました。平成2年には日本医科大学付属病院高度救命救急センターに国内留学し救急医療とICU管理を学び、その後は大学ならびに聖隷浜松病院で形成外科の臨床を研鑽すると共に研究にも従事しました。特に、再生医療の先駆的役割を果たした培養表皮移植の臨床と研究を熊谷憲夫助教授のご指導のもとで続けま

した。培養表皮移植は1980年に米国で初めて臨床応用に成功した治療法です。本邦では1985年に熊谷憲夫助教授によって第1例目が行われ、以後、広範囲熱傷をはじめ様々な皮膚疾患に対して移植治療が行われてまいりました。私は、表皮細胞の大量培養法を確立し培養表皮シートの作製法を開発したHoward Green教授に師事するため、平成7年から9年までハーバード医科大学細胞生物学教室にPostdoctoral Fellowとして留学しました。培養表皮移植の基礎と臨床、さらに上皮細胞の増殖と分化を研究しました。その成果は、帰国後の培養表皮移植治療の新たな展開にとどまらず糖尿病性潰瘍や膠原病性潰瘍等の難治性皮膚潰瘍の創傷治療へ応用することができました。また研究の合間にハーバード医科大学に隣接したブリガム・アンド・ウィメンズ病院とボストン子供病院で、米国形成外科の最先端を肌で感じたことは臨床医として貴重な経験になりました。

卒業して約30年間、多くの方と出会い、ご支援を頂いてまいりました。その中には思いもよらぬ恩師との再会もありました。教養課程2年時に西千葉で基礎生物学を担当していた小林浩士教授との再会です。Howard Green教授のPostdoctoral FellowだったYann Barrandon博士と小林浩士教授が共同研究していたことが再会のきっかけでした。その後、小林浩士教授からご推薦をいただいた日仏学術振興会の支援によりEcole Normale SupérieureのYann Barrandon研究室でお世話になりました。再生医療の実用化促進は現内閣の成長戦略の一つであり、そのための新法制定や海外展開に向けた取り組みが急速にすすめられています。再生医療製品事業を展開している株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング(JTEC)と富士フイルムが共同で申請した「中国における再生医療実用化プロジェクト」が、経済産業省の「日本の医療機器・サービスの海外展開に関する調査事業」に採択され、私も一昨年と昨年、上海交通大学医学院附属仁濟病院で培養表皮移植による治療に携わりました。そして本プロジェクトを通じて小林浩士教授の研究室で博士課程を修了したJTEC 研究員とお会いする機会

がりました。小林浩士教授の研究に取り組む真摯な姿勢や、厳しくも愛情あふれる学生教育のお話を伺い、研究者としてそして教育者としてどうあるべきかを深く考えさせられました。残念ながら小林浩士教授は昨年ご逝去されました。心からご冥福をお祈りいたします。

この間、私は聖マリアナ医科大学から慶應義塾大学医学部形成外科教室へ異動し、そして昨年4月に国際医療福祉大学三田病院形成外科へ2代目の部長として赴任しました。前任の

国際医療福祉大学医学部

産婦人科学 主任教授

田中 宏一 (平元)



このたび、平成29年4月1日付けで、国際医療福祉大学医学部産婦人科学主任教授を拝命いたしました。謹んでご報告申し上げます。私は、平成元年に千葉大学を卒業し、高見澤裕吉教

初代部長は、先述した聖マリアナ医科大学形成外科学教室入局時の助教授、酒井成身先生だったことも何かの縁と感じております。そしてこの度、また新たなご縁があつて千葉県に戻って参りました。千葉県で医療を行うのは初めてですが、おのほな同窓会の多くの先生方がいらっしゃるのでも心強いです。今後は母校がある千葉県の医療に微力ながら尽力いたしますので、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

授の運営する産科婦人科教室に入局させていただきました。高見澤教授は学生時代よりテニスを真剣になされており、身体も心も一流のスポーツマンでいらっしゃいました。そのような厳格な教授の下で、社会人一年生を迎えられたことは、いい加減な学生生活を送ってきた私にとっては、多くのことを学ぶ良い機会を得たと、今でも感謝いたして

おります。

半年で大学研修を終え、当時の国立横浜東病院に出張させていただきました。

そこでは、高見澤教授もお褒めになるほど手術が得意な高野昇副院長のもと、手術のみならず、医師としての姿勢、考え方を学びました。更に直属の上司である上杉健哲先生には患者と真摯に向き合う姿勢を学びました。その後、小見川総合病院での一人医長を経て、大学に帰局いたしました。

出張時代は病院医師ばかりでなく、大学勤務の稲葉憲之先生、岩崎秀昭先生、掛田充克先生、松井英雄先生、深澤一雄先生、大崎達也先生、木村博昭先生、ほか大勢の先生方に声をかけていただき、何とか大過なく過ごすことができました。大変感謝いたしております。

帰局後は、当時の産科婦人科教室の関谷宗英教授のご厚意のもと、出張時代に懇意にさせていただいた田中尚武先生のご推薦で、木村定雄教授の運営する高次機能研究所生体機構学講座へ大学院入学させていただきました。このことが、私の人生を大きく変えた転換期でありました。今まで研究には全く興味がなかったのですが、木村教授の情熱、

また西山眞理子先生のスマートフォンに触れ、徐々に研究の深みにはまっていきました。その後関谷教授の寛大な御計らいのもと、木村教授のご推薦で、テキサス大学サウスウエスタン校柳澤研究室に留学させていただきました。そこでも海外生活を謳歌することなく、毎日研究に打ち込んでおりました。新規ニューロペプチドであるオレキシン、NPB、NPW、の発見に関与し、帰国後も基礎研究を続けておりました。

エーザイ研究所での研究生活に限界を感じ始めていたころ、アメリカ留学時代に面識のあった、生水真紀夫教授にお声をかけていただき、再び、産婦人科医へと復帰させていただきました。帰局後は臨床を主にいたし、特に産後大量出血に対する集学的治療のシステム、コードむらさきを立ち上げ、輸血部、救急部とともに、多くの重症患者の治療にあたりました。生水教授の、病を学問的にとらえ、現象を正確に解説しようとする姿勢に自分も学び、短期間で臨床力を回復、発展させることができました。生水教授のご指導と感謝しております。更に生水教授の陰

推薦、同窓会諸先生方の陰

なるお力添えで、国際医療福祉大学の教授に就くことができ、大変感謝いたしております。

国際医療福祉大学医学部は今年度の入学生が一期生で、附属病院も2020年に開院と、歴史をこれから

作る大学であります。千葉県の医療、延いては世界レベルでの医療を、千葉大学とともに、発展させていきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

この度、国際医療福祉大学医学部 リウマチ・膠原病内科主任教授を拝命いたしました廣瀬晃一です。私は平成5年に千葉大学医学部を卒業し、千葉大学医学部第二内科に入局しました。千葉大学医学部附属病院、国保旭中央病院、横浜労災病院で臨床研修を行った後に、膠原病やアレルギーを始めた免疫疾患の病態、発症機序に興味を持ち、平成9年に大学院に入學しました。その後は東京大学医学研究所への国内留学、ブリティッシュコロ

ンビア大学への海外留学を経て、平成17年から千葉大学に戻り主にマウスモデルを用いてアレルギー性気道炎症の病態解明を行っております。

リウマチ・膠原病分野は老若男女、全身全ての臓器が対象となるため広い領域での知識が必要になります。さらに近年の生物製剤の導入により病態の理解、治療の進歩が非常に著しく進展している分野です。このような進歩の早い分野においても千葉大学アレルギー・膠原病内科は世界に誇る基礎研究、臨床研究を発信し、多くの尊敬できる先生方を排出しています。また特筆するべきこととして、その

多くの先輩方は関東の主要病院において膠原病内科を

支える存在となっております。今回、国際医療福祉大学医学部リウマチ・膠原病内科の主任教授を拝命し、新たな講座を担当させていただくにあたり身が引き締まるとともに、同門の先輩方の序列に加われたことを心から光榮に存じます。

このように歴史、伝統のある千葉大学に対して、国際医療福祉大学医学部は2017年に開学した最も新しい医学部です。開学間もないとは言え多くの優秀な先生方が着任され、入学した学生は活気に溢れています。今後はこれまでに千葉大学で学んだことを礎として、昨今重要視されるヒト免疫学などの分野において基礎医学教室や他の臨床医学教室との交流を活性化し、基礎医学を基盤とした臨床研究にも取り組みたいと考えています。入学した若い医学部生が興味を抱き、入局した医局員の能力が世界に羽ばたくリウマチ・膠原病内科学教室を作りたいと決意を新たにしています。

浅学の身ではありますが、教育、診療、研究の全ての分野においてリウマチ、膠原病領域のさらなる発展のため、強い自覚と使命感を持って望む所存です。千葉大学のはな同窓会の先生

方

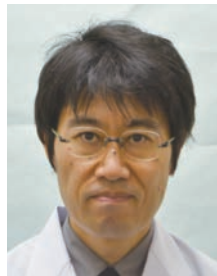
に於かれましては、今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほど心からお願い申し上げます。

浦野友彦(平6)

国際医療福祉大学医学部

リウマチ・膠原病内科 主任教授

廣瀬 晃一 (平5)



この度、国際医療福祉大学医学部 リウマチ・膠原病内科主任教授を拝命いたしました廣瀬晃一です。私は平成5年に千葉大学医学部を卒業し、千葉大学医学部第二内科に入局しました。千葉大学医学部附属病院、国保旭中央病院、横浜労災病院で臨床研修を行った後に、膠原病やアレルギーを始めた免疫疾患の病態、発症機序に興味を持ち、平成9年に大学院に入學しました。その後は東京大学医学研究所への国内留学、ブリティッシュコロ

国際医療福祉大学医学部

老年病学講座 主任教授

浦野 友彦 (平6)



私は平成6年に千葉大学医学部卒業後、東京大学医学部附属病院老年病科で研修を行いました。東大で研修を行なったきっかけは千葉大学の先輩である細井孝之先生(昭56)が老年病科に勤務していた関係で私をお誘いくださいました。以後も細井先生は老年病科で講師として多忙な日々を送る中で、私に基礎と臨床に関して直接ご指導いただきました。今の自分は細井先生に育てていただいたと思ひ、心より感謝しております。また当時の老年病科教授であった大内尉義先生にも多くの指導をいただき老年病学全般を学ぶことができました。私の研究テーマは乳癌、前立腺癌、骨粗鬆症など性ホルモンを増減によつて引き起こされる様々な疾患の発症メカニズムの解析です。疾患が多岐に渡ることから泌尿器科や産婦人科の大学院生と一緒に研究することもあり、多くの先生と共同研究し、それぞれが相互作用し、良い成果に結びついた気がします。日本大学泌尿器科の高橋悟主任教授、東京大学泌尿器科の藤村哲也准教授とも多くの論文を出すことができました。とも人の輪が広がっていった成果だと思っています。2003年には栄誉ある「のはな同窓会学術賞」をいただき、同窓会の先生方にも大変お世話になりました。その後、2013年に老年病科の新教授に秋下雅弘先生が就任されました。秋下先生は私の研修医時代のオーブンでありましたが、秋下先生のおかげで2014年2月より東大老年病科講師ならびに病棟医長として3年間勤務させていただきました。臨床、教育、研究に関

してあらためて多くのことを経験させていただきまし

として平成29年4月1日付で同日に千葉県成田市に開学した国際医療福祉大学

日本全国の医学部において老年病科を標榜している医学部は決して多くはありま

は今後の若手医師の育成においてには必須であると考え

この度平成28年9月1日付けで順天堂大学大学院医学研究科放射線診断学教授

これが3箇所目の教授職という珍しい経歴となつて

今思い返すと自分の人生において千葉大学医学部で

でした。当時はみんなた

くさんの会合を開き、音楽も楽しみました。それは今

順天堂大学大学院医学研究科 放射線診断学 教授

医学部放射線診断学講座担当教授(併任)

村上康 二(昭61)



この度平成28年9月1日付けで順天堂大学大学院医学研究科放射線診断学教授

これが3箇所目の教授職という珍しい経歴となつて

任挨拶を寄稿するのは今回が初めてなので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は昭和61年に千葉大学医学部を卒業し、すぐに有

局しました。有水教授は核医学が専門であったことか

の自分はなかつたと思いま

す。今後も、人との縁を大事にして、日々精進していきたいと思

から研修医の頃からまず核医学を中心に研修し、その後

帝京大学病院に異動してからはI.V.Rを中心に研修致

交通事故の救急搬送が非常に多く、当時は骨盤内出血

倉病院を転任し、次に有水教授から提示されたのは、放

平成4年に新設された国立がんセンター東病院(現国立

射線部に異動しました。当時の国立がんセンター東病

芝との共同研究であるへり

カルCTの開発に関わらせて頂きました。一方、2000年に国立がんセンター

その後2002年に保険適用となり、全国で爆発的に

5年に獨協医科大学にPETセンターが新設されるこ

てがんセンターから異動致しましたが、この際には同

後に今度は慶應義塾大学にPET導入のため赴任し、

さらに昨年に順天堂大学に転任してあります。これだけ

の都度「前施設よりも更に良い施設を作る」事を目標

ば私が今まで在籍した国立がんセンターは市川平三郎

堂大学も白壁彦夫先生の多大なる業績を抜きには歴史

千葉大学が大きな足跡を残した施設です。また現在で

康特任教授、乳腺外科の齊

このたび、平成29年4月1日付けで、帝京大学ちば

総合医療センター外科肝胆膵教授に就任致しました。

私は、昭和61年に千葉大学医学部を卒業後、奥井勝

連病院で消化器外科を中心に外科学一般を学び、平成

勝前教授がとりまとめられた肝胆道研究室(第五研究

藤光江教授が同門で活躍されていきます。私もその名を

の先生方におかれましてはよろしくご指導・ご鞭撻の

き、肝胆道領域の臨床・基礎研究に従事しました。そ

の後、宮崎先生のご高配により平成5年からUniver-

経験は外科医として臨床につなげるトランスレーショ

平成7年に帰局した後は、宮崎前教授のもとで肝胆膵

外科、とくに胆道癌外科治療について研鑽を積んで

務させていただいた22年間

という長い間、おのほな同窓会の先生方を始め、多く

高度先進医療を行う大学病院であるとともに地域医療

のなか核を担う基幹病院でもあります。外科講座には千

に協力しあいながら日々の外科診療にあたっております。

先生方もたくさん勤務されており、多様性のある環境で

ながら、地域医療に貢献していくとともに、肝胆膵領域

に邁進していきたいと考えております。また、同時に

と思っております。

千葉大学ののほな同窓会の先生方におかれましては、今後も引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

帝京大学ちば総合医療センター

整形外科 教授

村田 泰章 (平5)



千葉県内の関連病院で勤務した後、東京女子医科大学に異動となり、このたび9年ぶりに千葉県内の病院に戻って参りました。

私は、千葉大学を卒業後、千葉大学整形外科教室(守屋秀繁教授)に入局しました。千葉大学整形外科では、当時、講師だった高橋和久先生(前教授)の腰椎グループで研究活動、診療活動を行って参りました。平成9年に千葉大学大学院医学研究院に進学し、仙腸関節の神経支配に関する研究を中心に、腰椎疾患全般の研究を行いました。平成13年には、高橋先生にお願いして、スウェーデンのヨーテボリ

また、市原、内房地区に肝臓領域の外科治療を要する患者さまがいらつしやいましたら、ご紹介いただけたら幸いです。

大学に2年間の留学の機会をいただきました。椎間板髄核から産生されるサイトカインの研究を行うかたわら、北欧での生活を満喫しておりました。以前からヨーロッパで暮らすことに憧れていた私にとっては、北欧での生活は念願の夢が叶った形となりました。北欧での生活を楽しまついでに、実験も行っていましたと言つてしまえるくらい充実した日々でした。帰国後、関連病院で勤務した後、平成20年に東京女子医科大学整形外科(加藤義治教授)に異動となりました。女子医大には、透析例や糖尿病、心疾患のある全身状態の悪い患者が非常に多く、合併症の多い方の脊椎手術を数多く執刀してきました。上位脊椎から、腰椎まで全ての脊椎疾患の手術を、いかに生命の危険を避けて行うか

というところが、常に課題となる診療でした。出血を少なくして、短時間で手術を行う技術を磨く場だったと感じております。女子医大には、講師として赴任し、平成24年から准教授を拜命して、手術などの診療以外に、学生の講義など、教育も担当して参りました。帝京大学では、引き続き、頸椎、胸椎、腰椎疾患の治療を主に担当しています。さつそく、着任した月から脊椎手術を開始しています。帝京大学ちば総合医療センターも、透析患者や、糖尿病などの合併症を有する患者の脊椎手術が多い傾向にあります。引き続き、全身状態の悪い方の脊椎手術を担当することが多くなりそうです。これまで培ってきた経験を生かせる場をいただき、ご推薦してくださった千葉大学整形外科の大島精司教授には、大変感謝しております。

ところで、女子医大に異動となったときは、この転勤を予想することができず、すでに千葉市内に家を建ててしまつておりました。引越す気になれず、結局、通勤ラッシュを避けるため、朝4時半の電車に乗って通勤していました。午前6時前に医局に着いてしまうの

で、朝のカンファレンス前に、2時間ほど仕事をするというライフスタイルでした。今年4月からは、朝食を自宅でき、深煎りのマシンドリン豆を挽いて、ゆつたりコーヒーを飲んでから出勤できるようにになりました。お蔭様で、平日に家族と会うことができる生活に戻ることができました。多少、時間に余裕を持ちながら、若手の指導もしつかり行つていきたいと思つています。合併症があり、手術が難しい脊椎疾患の患者さんがいらつしやいましたら、ご紹介いただければ幸いです。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



平成29年度 千葉大学医師会 学術講演会

日時：2017年11月2日(木) 18:00~19:00

会場：千葉大学ののほな同窓会館 1階 ホール

講演会 18:00~19:00

前立腺癌における最近の話題

演者：市川智彦 先生

(千葉大学大学院医学研究院 泌尿器科学 教授 / 千葉大学医師会 副会長・理事)

日医生涯教育講座(1単位 CC:65)

懇親会 19:00~



参加資格：医師(会員・非会員は問いません)、医療従事者、亥鼻地区の千葉大教員・学生
参加費：医師のみ1,000円、その他は無料

参加希望の方は、お名前、ご所属(医療機関名等)、連絡先(TEL・FAX・E-mail)を明記の上、下記事務局まで、メール・FAXにてお申し込み下さい。

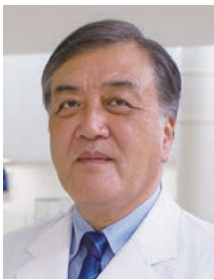
お問い合わせ：千葉大学医師会 260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内
TEL：043-202-3755 FAX：043-202-3757
E-mail：ishikai@c-med.org

病院長就任挨拶

東千葉メディカルセンター

理事長・センター長

増田 政久 (昭50)



この4月に平澤博之前理事長・センター長の後任として東千葉メディカルセンターに赴任しました。また、前任の国立病院機構千葉医療センター在職中は、いろいろな方々に大変お世話になりました。この紙面をお借りして心よりお礼申し上げます。

さて、東千葉メディカルセンターは2014年に当医療圏の課題であった救急医療・急性期医療に取り組み地域の中核施設として、千葉大学医学部との密接な関係を背景に教育にも携わる東金九十九里地域臨床教育センターを併せ持つ特色ある施設として開設されました。今年で開院4年目となりますが、現在、19診療科が診療を行っており、課

さらに、臨床教育センターでもある以上、医師をはじめ各部門の若手が地域臨床を学べる施設としての環境作りを進め、その役割を担えれば大変意義のあることだと思っています。東千葉メディカルセンターは、

国立病院機構

千葉医療センター

院長 杉浦 信之 (昭54)



平成29年4月1日付で増田政久前院長の後任として国立病院機構千葉医療センター院長に就任いたしました。あのはな同窓会の諸先生方にはこれまで格別のご指導、ご高配を賜ってまいりました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

私は昭和54年に千葉大学を卒業後、故奥田邦雄名誉教授が主宰する第一内科に入局いたしました。上都賀総合病院に一時出張後、昭和57年10月に帰局し、胆道、膵臓を中心に研究している

まだ歩き始めたばかりの施設です。これからも引き続き皆様方ならびに地域の方々の忌憚のないご指導・ご鞭撻を賜りながら、成長していきたいと考えていますので、宜しくお願い申し上げます。

故大藤正雄名誉教授(当時助教授)ひきいる第8研究室に入りました。第8研究室は、大藤先生が超音波画像診断装置を駆使して肝胆膵領域の診断治療に素晴らしい成績をあげており、特に肝細胞癌の診断と治療に強い意欲をもたれていました。その一つとして肝細胞癌に対するエタノール注入療法(PEI)が私の研究テーマとなり、その開発と臨床にたずさわりました。その後国立

横浜東病院(現聖隷横浜病院)に異動し三木亮先生(のちに横浜東病院院長から横浜病院院長へ異動)のもとで消化器病を研鑽後、1990年に助手として大学に戻りました。税所宏光先生(現名誉教授)のもと、1997年に講師に昇任後、2000

3年4月に国立千葉病院に異動いたしました。それまで院長であった武者廣隆先生が退官され、小林千鶴子先生とともに消化器内科を中心内科診療にたずさわってきました。当院は昭和20年に私の祖父が戦時中に召集された旧陸軍病院から厚生省に移管され、国立千葉病院となり、平成16年から独立行政法人国立病院機構に移行し、独立行政法人国立病院機構千葉医療センターとなりました。歴代

院長を含めた職員一同の長年の悲願であった新病院建設が平成22年3月竣工し、今年で8年目になります。診療科は全部で27であり、医師は常勤、非常勤、研修医合わせて117名です。医師のほとんどは千葉大関係であり、所属教室から後

期研修医を含め20名前後の医師が派遣されており、初期研修医は大学との協力型を含め18名の先生が研修医室で日夜研修に励んでいます。来年度から新専門医制度が開始となり、当院はほとんどの診療科は大学との連携型となりますが、内科と外科は基幹型での専攻医を募集する予定です。国立病院機構の千葉東病院、下志津病院、下総精神医療センターの3病院が近隣にある

千葉県がんセンター

病院長 山口 武人 (昭56)



りますので、初期研修でご協力いただいておりますが、専門医研修でもレベルの高い研修を4病院の力を結集して行っていく所存です。これまでは、国立病院機構は優良企業となっており、高年齢化社会を見据えた今後の医療界において、健全な医療体制をどのように構築するか難しい状況と

この度、千葉県がんセンター病院長に就任いたしました山口武人です。私は1981年(昭和56年)に千葉大学を卒業し、直ちに奥田邦雄先生が教授をされていた第一内科に入局いたしました。当時の第一内科の消化器は、次の教授となられた大藤正雄先生が室長をされていた第八研究室、後に東京大学消化器内科教授となられた小俣政男先生率いる第二研究室、埼玉医科大学

なってきたいます。当院の目標として「これからの医療に対応する病院力を磨く」を掲げ、急性期病院として地域医療に貢献すべく努力していきたいと思っております。あのはな同窓会の皆様のご健康を祈念いたしますとともに、今後もひきつづきましてご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

学助教となられた大西久仁彦先生がチーフの第三研究室に分かれていました。また、第八研究室には前々教授の税所宏光先生、大網市民病院院長をされた土屋幸浩先生がおられ、第二研究室には前教授の横須賀収先生、現千葉大学健康管理センター教授の今関文夫先生、第三研究室には前検査部教授の野村文夫先生がおられました。優秀な先生がキラ星のごとくおられ、新入医局員の私には眩いばかりでした。1年半の学内研修後、清水厚生病院で内科研修を行い1985年に帰局、第八研究室に配属となりました。与えられた研究

テーマは「超音波映像下経皮的腓腸組織検査法の確立に関する研究」で、税所先生のご指導の下、学位論文とさせていただきます。それ以降、胆膵疾患の臨床研究が中心テーマとなりました。2004年には、San Francisco, California Pacific Medical Centerに留学させていただき、主に超音波内視鏡(EUS)とカプセル内視鏡の臨床研究をする機会を頂きました。

千葉県がんセンターには2007年、診療部長として赴任しました。当時のがんセンターは、竜宗正先生(昭43)がセンター長を務められていました。竜先生はがんセンターの診療体制を大改革され、患者数が激増していた時期でもありました。消化器内科は傳田忠道部長以下私を含め5人しかおらず、診療だけでも毎日大変でしたが、充実したがん診療をさせていただきました。2013年に副病院長となり、がんセンターの診療全体を統括するとともに、臨床研究や倫理委員会の委員長の重責を任せられました。しかし、2014年に腹腔鏡手術の事故が明るみとなり、新聞、雑誌などで大きく報道されることとなりました。その後も病理

検体の取り違えや、ガーター遺残などの不祥事が次々と重なり、がんセンターの診療体制や医療安全の取り組みの不備を厳しく問われました。患者数も激減し、経営的にも非常に厳しい状況は今も続いています。もちろん患者さん、ご家族に大変なご迷惑をおかけした事を謝罪、反省した上で、改革・改善に取り組みました。職員の懸命な努力により、現在千葉県がんセンターの医療安全体制は、どこにも引けを取らないレベルになったと自負しています。

本年4月から、永田松夫前病院長に替わり、病院長に就任いたしました。永田先生はがんセンターが一番大変な時期に病院長をされ、非常にご苦労をされたことと思います。この場をお借りして、永田先生に感謝・御礼を申し上げます。新病院は29年度から建設工事を開始し、31年度中の完成を目指しています。病床数も100以上増床し、450床となる予定です。医療設備も最新の機器を取り入れることとしており、日々進歩する高度ながん医療にも対応できることを目指しています。伝統ある千葉県がんセンターの発展に全力で取り組み所存ですので、な

にとぞよろしくお願いいたします。

千葉県精神科医療センター

病院長 深見 悟郎 (平7)



この4月1日より、千葉県精神科医療センター病院長に就任いたしました。平成7年卒業の深見悟郎です。当センターは昭和60年に設立され、今年で33年目を迎えますが、初代の計見一雄先生より始まり、浅野誠先生、平田豊明先生と引き継がれ、私で4代目ということになります。昭和60年当時の精神科医療と言え、病院への収容・長期療養を主体とした医療が主流でしたが、このセンターでは24時間即応型の医療を提供し、かつ早期に退院させ精神障害者の社会生活を支援することを目指し、「精神科救急医療」という新たな分野を開拓しました。そして日本の精神科医療における革命的パイオニアの病院として日本の精神科医療業界内で

はその名前を知らない人はいないくらいに地位を築き上げました。このような偉大な先輩方の後を担うのは大変な重責ではございますが、お力添えをいただければと思います。さて先達の活躍もあり千葉県における精神科救急システムは概ね整備され安定期に差し掛かった感がございますが、次世代に向け新たに取り組むべき課題も見えてきました。一つは大規模災害時における精神科医療です。災害時の精神的な問題と言え、中長期にわたる避難生活などのストレスから生じる精神変調に對しての支援がイメージされるのですが、実のところは東日本大震災でも熊本地震でも、発災直後の精神障害者への救急の支援の必要性が問題となっており、当センターでは、平成26年よりこれら災害時に迅速に対応する精神科医療チームを整備し、千葉県における災害派遣精神医療チーム(DPAT)先遣隊として活動を展開しています。更には、当センターの隣にあります千葉県救急医療センターとの合築が計画されています。千葉県救急医療センターも高度な救命救急医療を提供する専門病院として歴史ある病院ですが、その病院との連携を深めることで、単に自殺などで外傷を負った精神障害者への医療を提供するだけでなく、高齢化社会における大きな問題、即ち救命救急医療が必要な認知症患者への対応など、新たな分野へのチャレンジも期待されるところでございます。そして先述のDPATが災害時の救急医療チームであるDMATと協働することにより、災害医療全体を包括しながら、その中核的な拠点となることを目指しております。

当センターの歴史は「誰もやったことがないこと」に尽力することで歴史を作ってきましたが、これからまた新たに「誰もやったことがないこと」への挑戦を始めていきたいと思っておりますので、ご支援賜ればと存じます。最後に私の自己紹介ですが、何分7年かかってやっと卒業できた不良学生でし

たので自慢できる箇所は何もありませんが、医師になつてからは目の前の患者様に尽力するというところでは、千葉大学の校風をし

っかり学ばせていただいたと思っております。これらの若い千葉大生に大いに期待しております。

千葉大学校友会総会・ホームカミングデー

日時：平成29年11月3日(金・祝日)
14時～16時

場所：千葉大学けやき会館大ホール
(千葉大学西千葉キャンパス)

総会：14時から

ホームカミングデー：14時30分から
講演 大木 佑太氏(工学研究科修了生)
落語 桂 歌之助氏(工学部卒業生)

懇親会：16時30分頃から
(けやき会館内レストラン「コルザ」)

平成30年版 名簿発行のお知らせ

- 名簿発行日：平成29年10月下旬
- 体裁：変形A4判(約540頁)
- 名簿価格：3,000円

名簿作成委託先
このたびの名簿作成は、正式な同窓会事業として株式会社サラト(兵庫県姫路市)に委託しております。
株式会社サラトのホームページ <http://www.salat.co.jp>

受章の挨拶

瑞宝小綬章

瑞宝小綬章を受章して



浅野 誠 (昭48)

この度、70歳で勲章をいただきました。瑞宝小綬章というもので、この5月11日に宮中で天皇陛下よりお祝いのお言葉をいただきました。

私は千葉大学を昭和48年に卒業後、40年間臨床医として働いてきましたが、さしたる研究歴はありません。ただ、昭和60年に千葉県精神科医療センターが設立され、全国に先駆けて精神科の救急医療がスタートしました。計見一雄先生、平田豊明先生とともに、その仕事に携わったことが評価を受けたようです。もちろん、多くの関係者の皆さんからの推薦があつてこそいただけるものです。受章にご支援ご尽力いただいた方々に、この場を借りて感謝申し上げます。千葉県精神科医療センター

1ができる以前は、精神科の緊急状態への対応は治安的側面が大きかったのですが、精神疾患も疾病である以上医療としての対応が必要であることは言うまでもありません。救急医療として精神科の緊急状態に対応することを位置づけたのは千葉県が最初であつたと思います。これはまた、迅速な医療の提供により、疾病がもたらす損失の最小化を目指すものでした。この中には精神科医療にかかわる医療費の増大を抑えるという目的もありました。現在、精神科救急医療は地域差がかなりあるにしても全国に普及しつつありますが、こういった医療の変革のさきがけの仕事に携われたことは私にとって幸せなことであつたと思います。

昨今、精神医療はまた新たな変革が必要な状況になつてきているようです。3年ほど前に花見川区花園に、桜並木診療院を開きました。が、患者は多岐にわたり、ストレス障害やうつ病圏の

患者が大変多く来院します。病院では急性精神病状態にある患者を主として診ていましたが、精神の疾病としてはそれはほんの一部であり、いまさらながら、精神の疾病の多彩さと複雑さ奥深さに、老骨に鞭打つて勉強の毎日を送っています。(追記) 平成24年 第40回医療功労賞受賞

平成29年度

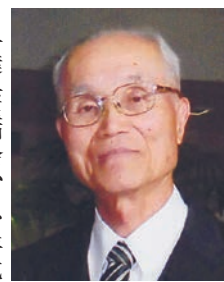
総会において選出された名誉会員

- 阿部 一憲 氏(昭39)
- 矢端 幸夫 氏(昭46)
- 西川 哲男 氏(昭47)



旭日光章

旭日光章を受章して



伯野 中彦 (昭37)

貴重な知識にもなりました。全力を注いだ会長時代でしたが、有意義な毎日で、8年間体調を崩さなかつたことが幸運でした。

82歳になった現在は、自院での一次診療に専念し、体力維持のために、ゴルフを週1〜2回やっております。今後も微力ながら生涯現役を目指し、地域医療に携わっていきたいと考えております。

座右の銘は論語「徳は孤ならず、必ず隣あり」です。「正しいことを行つていれば孤立せず、必ず共鳴者が現れる」という意味です。

最後にりましたが、藤森宗徳元千葉県医師会長(昭37)、田畑陽一郎千葉県医師会長(昭46)、千葉県および千葉県医師会理事、事務局の方々に深く感謝申し上げます。

(略歴)

人命救助により警視總監賞受賞(高校2年生)

昭和37年千葉大学医学部卒業、国立国府台病院でインターン、昭和42年千葉大学大学院博士課程修了、医学博士。千葉大学第一外科

に入局。その後、国立千葉東病院、軽井沢病院、松戸市立病院、船橋済生会病院への出張を経て、昭和48年に千葉県花見川区の団地で、外科胃腸科の有床診療所を開設。

平成6年千葉市医師会理事(看護学校担当)。平成10年千葉市医師会立看護専門学校校長。千葉市医師会副会長(8年間)。日本医師会代議員。平成17年千葉市青葉看護専門学校が新設され初代校長(5年間)。千葉県医師会代議員会副議長。日本医師会学術推進会委員

員(テーマは専門医制度、議長は高久史磨日本医学学会長)。

阪神淡路大震災の後、14の政令市医師会間の大災害時相互支援協定を締結。平成20年千葉市医師会主催で14大都市医師会連絡協議会を開催、ホテルニューオータニ幕張で「医療崩壊」をテーマに全国各地から医師会役員約500名が参加。平成22年千葉県医師会参

与 平成26年千葉市より「救急医療体制の充実に尽力」として特別市政功労賞を受賞。

叙勲、褒章その他祝事に

関係された方は是非同窓会事務室までご一報下さい。編集部でも絶えず注意しておりますが、ニュースに接し得ない事態もあります。お喜びはなるべく早く、同窓の皆様にもお分けしたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

りのはな同窓会地区会長挨拶

東京のりのはな会 会長 吉原 俊雄 (昭53)



平成29年6月24日の東京のりのはな会総会において会長に推挙されました。様々な改革を成し遂げられました伊藤達雄(昭42)前会長の後任として、東京のりのはな会のさらなる充実と発展に尽力する所存です。東京のりのはな会の会長はこれまで貫洞一夫、長澤仁一、小幡裕、済陽高穂、伊藤達雄先生とすばらしい先輩方が務められ、東京の同窓の連携のために尽力されました。東京には大学、病院、診療所、研究所、厚労省他施設で多数の先生方が活躍されており、医学生にとってもすばらしいロールモデルとなると自負しております。私は現在、千葉大学のりのはな同窓会副会長を務めさせていただきますが、伊藤達雄、角田隆文、赤倉功一郎、

岡本和久、横須賀忠の諸先生は千葉大学のりのはな同窓会の理事会にも参画していただきます。全国組織と東京支部の相互の情報交換や協力によって千葉大学医学部学生、全同窓会会員にとって意義ある、また楽しい同窓会組織づくりに邁進していくつもりでおります。

東京のりのはな会の新役員体制を紹介させていただきます。

会長…吉原 俊雄(昭53)
副会長…栗原 正利(昭54)
岡本 和久(平2)
井上 賢治(平5)

各部署理事 傍線は担当理事
勤務医部…

島田 英昭(昭59)
赤倉功一郎(昭59)
齊藤 光江(昭59)
寺谷 俊康(平16)
吉村 健佑(平19)

総務部…横須賀 忠(平5)
中村 清吾(昭57)
小松幹一郎(平10)

会計部…栗原 正利(昭54)
石井 康宏(平元)

広報情報部…井上 賢治(平5)

渉外担当部…道永 麻里(昭56)

他各地区担当理事
学年担当幹事
(平成以降の各学年代表)
監事…岩倉 弘毅(昭37)
伊藤 達雄(昭42)

平成30年度6月の千葉大学のりのはな同窓会総会は東京支部が担当ですので、役員一同鋭意準備を進めたいと存じます。

三浦 文彦(平3)
角田 隆文(昭57)
病診連携部…赤倉功一郎(昭59)
清水 公一(平3)

他各地区担当理事
学年担当幹事
(平成以降の各学年代表)
監事…岩倉 弘毅(昭37)
伊藤 達雄(昭42)

平成30年度6月の千葉大学のりのはな同窓会総会は東京支部が担当ですので、役員一同鋭意準備を進めたいと存じます。

各地のりのはな会 だより

栃木県のりのはな会総会

平成28年度栃木県のりのはな会総会が平成29年1月22日(日)午後2時30分より、例年通り宇都宮市のホテルニューイタヤで開かれた。出席者は千葉大学循環器内科学教授小林欣夫先生、済陽高穂全国のりのはな会会長、伊藤達雄東京のりのはな会会長、石川詔雄茨城県のりのはな会会長、秋葉哲生千葉県のりのはな会会長と本会員28名、計33名であった。最高齢は平成26年卒、92歳の糸

下し長生きできると聴き、改めて会員一同女性の強さを実感した次第であった。懇親会では済陽高穂先生が最近の千葉大学での不祥事について触れられ、先輩後輩の関係が希薄になったことも一因ではないかと話された。伊藤達雄、石川詔雄、秋葉哲生各先生からは各地域での現状と課題についての話があった。更に平成28年に獨協医科大学病理学主任教授に就任された矢澤卓也先生より挨拶があった。同じく昨年獨協医科大学病院排泄機能センター教授に就任された山西友典先生より挨拶があった。済生会宇都宮病院泌尿器科戸邊豊総先生は同科の充実ぶりを話された。掛田充克先生は久しぶりの出席であった。常連の宍戸忠幸先生も挨拶された。会は和気藹々に終了し盛会であった。ただ嶋崎勝典先生が写真に間に合わなかったことが悔やまれる。

井久雄先生であった。一昨年坂田早苗先生が会長を退かれ、昨年新たに栃木県のりのはな会会長に就いた崎尾秀彰先生の挨拶の後、物故会員6名師尾武先生、明石康三先生、上山滋太郎先生、海老沼光治先生、吉田敏郎先生、福田武隼先生)に対する黙祷を行った。本年は例年に比べ物故者が多い年であった。会計報告の後、引き続き講演会に移った。前半は獨協医科大学副学長の福田健先生の司会により昨年獨協医科大学リウマチ・膠原病内科教授に就任した倉沢和宏先生より「関節リウマチ診療の進歩」と題した関節リウマチの最新知見を講演いただいた。後半は旧第三内科OBの那須中央病院副院長である福田利男先生の司会で小林欣夫先生より「虚血性心疾患における抗血栓療法について」の講演があった。福田利男先生と同じ旧第三内科出身の伏島堅二先生の的確な質問により講演会は締まったものとなった。小林教授は更に一般向けに少し砕けた「動脈硬化になる生活、ならない生活」と題した話を加えられた。男性は離婚で、さらに死別で心筋梗塞のリスクが上昇するが、女性は死別すると却ってリスクが低

写真右から
前列…門馬公経(昭42)、糸井久雄(昭26)、矢澤卓也(筑波大・昭63)、大井利夫(昭35)、坂田早苗(昭34)、崎尾秀彰(昭44)、済陽高穂(昭45)、小林欣夫(昭63)、伊藤達雄(昭42)、秋葉哲生(昭50)、石川詔雄(昭47)
中列…小池正造(昭53)、大



宮安紀彦(昭53)、福田健(昭48)、山西友典(昭57)、倉沢和宏(昭58)、星野聡(昭43)、斎藤弘司(昭43)、森俣久夫(昭51)、本多陸人(昭42)、掛田充克(昭54)、村野俊一(昭50)
後列…早乙女勇(昭48)、福田利男(昭52)、伏島堅二(昭52)、廣田勝太郎(昭55)、十川康弘(昭55)、一戸彰(昭45)、高原正信(昭57)、戸邊豊総(旭川医大・平元)、長井千輔(昭50)、宍戸忠幸(山梨医大・平8)
(廣田勝太郎)

安房のものはな会

平成28年10月26日(水)たてやま夕日海岸ホテルに於いて、安房のものはな会総会・学術講演会が開催されました。

総会終了後、「閉塞性睡眠時無呼吸症候群―あらゆる診療科で重要です―」と題して、麻酔科学磯野史朗教授より御講演をいただきました。先生はカナダ・カルガリー大学留学中に睡眠時無呼吸の病態生理を研究され、全身麻酔中に咽頭閉塞性を評価する方法を考案、周術期気道管理に応用しており、睡眠時無呼吸患者の治療も行っているそうです。また大学では周術期管理センターを立ち上げ、術前評価から術後管理まで、麻酔科を中心としたチームで行っているとのこと、最新の大学病院の様子もお話しくださり、とても勉強になりました。

講演会終了後、磯野先生を囲んで記念撮影を行った後、波奈総本店に場所を移し、情報交換会が行われました。いろいろな診療科の会員から、睡眠時無呼吸と自分の専門科との関連について質問があり、それぞれにわかりやすく説明してい



いただき、おおいに盛り上がり、とても楽しい時間を過ごすことができました。

写真右から
前列：関谷信平(昭38)、原久彌(昭34)、本位田泰介(昭28)、磯野史朗教授(昭59)、青木謹(昭36)、佐伯陳哉(昭35)、本多満(昭37)
後列：黒野隆(東海大・昭

東京のものはな会 平成29年度総会

平成29年6月24日東京のものはな会総会は銀座アスタールお茶の水水館にて開催された。本総会において伊藤達雄会長(昭42)の後任として、副会長であった吉原俊雄(昭53)の会長就任が承認された。また新副会長として栗原正利(昭54)、岡本和久(平2)、井上賢治(平5)が各々承認された。新理事、監事も決まり新しい体制で運営していくこととなった。

その他各地区からは地区担当理事と平成卒以降の会員は学年担当幹事として承認された。今後は理事、若手幹事が中心となり東京に居住あるいは勤務の同窓生の情報交換、医療連携や交流を推進していくこととなった。

各部報告、協議、監査報告の後に特別講演として国際医療福祉大学老年病科主任教授の浦野友彦先生(平6)から「骨粗鬆症研究を通してみた老年病学の現在と未来」を、母子愛育会総合母子保健センター所長の中林正雄先生(昭43)からは「周産期医療の現在と未来」というテーマでご講演をいただいた。会員一同、自身の専門領域のあるなしに拘ら

ず、お二人の先生から様々な立場と観点からの有益な講演を拝聴することができ、会員一同大いに啓発される時間を過ごすことができた。また若手シヨートスピーチとして鳩貝健先生(平17、厚労省PMDA)、岩間敬子先生(平22、順天堂乳腺外科)、難波俊文先生(平29、聖路加)から各々の現状と将来の展望について発表があり、亥鼻祭の実行委員3年生の上條恵利子さんから元気なプレゼンテーションが行われた。皆、将来楽しみな若手の卒業生、学生さんであり、同窓会の先輩方にとっても刺激となる後輩の話しを聞くことができた。

本総会は大先輩の同窓生から、千葉、埼玉の来賓、また若手の先生方、研修医、学生さんまでの幅広い世代の出席があり、懇親会は和気あいあいとしたムードの中で名刺交換や貴重な情報交換の場となった。

出席者
長澤仁(昭24)、伊谷昭幸(昭30)、藤山嘉信(昭30)、村瀬靖(昭30)、藤本茂(昭32)、岩倉弘毅(昭37)、吉川広和(昭40)、伊藤達雄(昭42)、中林正雄(昭43)、浅野武秀(昭44)、奥村康(昭44)、河村弘庸(昭44)、崎尾秀彰(昭44)、中林清美(昭44)、

石場俊太郎(昭45)、橋本英明(昭45)、林泰昭(昭45)、済陽高穂(昭45)、矢端幸夫(昭46)、宮崎勝(昭50)、稲田晴生(昭52)、吉原俊雄(昭53)、栗原正利(昭54)、伊丹純昭(昭56)、道永幸治(昭56)、角田隆文(昭57)、島田英昭(昭59)、石井康宏(平元)、岡本和久(平2)、小島博之(平3)、三浦文彦(平3)、吉田



克彦(平4)、浦野友彦(平6)、奥川忠博(平6)、留守卓也(平7)、小松幹一郎(平10)、奥川英博(平12)、鳩貝健(平17)、吉村健佑(平19)、吉原晋太郎(平21)、岩間敬子(平22)、黒川友哉(平23)、豊田幸子(平23)、難波俊文(平29)、上條恵利子(医学部3年)
(吉原俊雄)

君津木更津 のなはな同窓会

平成29年度君津木更津のなはな同窓会総会は去る6月21日(水)に木更津市の東京ベイプラザホテルで開催された。君津、木更津、富津、袖ヶ浦市内で開催されている先生方をはじめ、君津中央病院の医師、OB、初期研修医、後期研修医など37名が参加した。まず青柳博会長(昭49)からご挨拶があり、昨年ご逝去された近藤春樹先生(昭47、袖ヶ浦さつき台病院に黙禱がささげられた。事業報告、会計報告、会員の動向(新入会9名、退会8名、物故1名、平成29年6月現在会員数100名)、執行部人事(会長青柳博先生他)の承認がなされた。

今回は今年千葉大学消化器内科に就任された加藤直也教授(昭61)をお招きし、君津中央病院院務局長畦元亮作先生(昭58)の司会のもと、肝臓病の最新の治療と残された課題、というタイトルでご講演頂いた。自己紹介の後、肝臓の働きに始まり、B型肝炎、C型肝炎の治療の歴史と今後の展望と課題、脂肪肝とNASH、抗PD-1抗体、AIによるオーダーメイド治療に

至るまで多岐にわたる肝臓の話のわかりやすくご講演いただいた。講演の最後には、新しい医学部棟新設の青写真もお示しいただいた。

写真撮影の後、懇親会場に移り、君津中央病院名誉院長唐木清一先生(昭28)の乾杯の後、新入会員挨拶や昔談義に花を咲かせた。懇



親会中締め後、会場を移し二次会となり、市内の花街で加藤教授にも深夜0時過ぎまでお付き合頂いた。参加者は、総会のみ参加1名、遅れて懇親会参加8名を加えて37名でした。

写真右から
前列：赤星至朗(昭34)、中沢肇(昭52)、清水天(昭39)、横山宏専(昭25)、山角博(昭36)、山口正敏(昭39)
後列：小林哲(金沢大医・平11)、小俣政男(昭45)、鶴田好孝(昭54)、古屋好美(昭53)、花輪孝雄(昭45)、細田和彦(昭58)、岩佐景一郎(平20)

写真右から
前列：氷見寿治(昭55)、唐木清一(昭28)、三枝一雄(昭32)、福山悦男(昭36)、青柳博(昭49)、加藤直也教授(昭61)、海保隆(昭57)、田中弘一(昭42)、松清央(昭43)、鈴木紀彰(昭50)
中列：孫莉玲(平3)、加藤大介(昭62)、竹内修(東海大・昭61)、李元浩(昭53)、三枝奈芳紀(信州大・昭57)、布村正夫(昭53)、須藤義夫(昭55)、畦元亮作(昭58)、叶川直哉
後列：北村伸哉(平元)、渡部良夫(昭63)、松戸裕治(平6)、永寛薫(昭56)、清水弘則(平4)、古谷雄三(昭61)、河木潤(島根大・平3)、山田博之(平9)、小川悠介(平26)
(海保隆)

平成29年度山梨のなはな同窓会が6月29日、甲府市のホテル談露館にて13名の先生方にご参加いただきました。驚嘆の声が出ていました。

山梨のなはな会

平成29年度山梨のなはな同窓会が6月29日、甲府市のホテル談露館にて13名の先生方にご参加いただきました。

新入会員は厚労省から県庁へ出向中の岩佐景一郎先生(平20)。地方の医療の実情と問題をよく把握していただき中央に戻られた日には存分に活躍していただけることと思います。

以前より字がうまくなったと順調な経過をお聞きしました。
のなはな同窓会常任理事の花輪孝雄先生から理事会のご報告がありました。当会の名称が山梨県支部になっていて実態に合わないため「山梨のなはな会」に改



称したい旨の提案があり全
会一致で承認されました。
また会誌発行の提案もあり
ました。

時間いっぱい歓談を楽し
み、最後に出席者全員の写
真撮影を行い閉会となりま
した。しかしその後も弾む
話は止まらず最後はホテル
マンに片付けの邪魔とばか
り追い返されることとなり
ました。

近年は新会員の加入が少
なく高齢化が進む当会です
が総会には多くの先生方に
参加していただけるように
したいと思えます。

(鶴田好孝、細田和彦)

一杯会 平成29年度総会

平成29年7月1日18時か
ら京成ホテルミラマールに
て開催された。初めに5名
の昨年度物故者に対する黙
とうがあり、田邊政裕会長
より今年度は千葉高等学校
から5名の新入生を迎えた
などの報告があった。その
後医学部3年生佐藤藤緒さ
んの進行で同学年の大八木
宏樹君から会計報告があり、
市川邦夫先生の乾杯の挨拶
で、懇親会となった。しば
し歓談後、副会長の花岡英
紀先生から、医学部の近況
報告、附属病院での新任科

長や外来棟がテレビドラマ
で放送されたことなどの話
題を提供していただいた。
新医学部建設などで、野球

場がなくなるなど、学生時
代準硬式野球部に属した者
としては、残念な気持ちも
あった。その後新たな取り



組みとして、参加した学生
がグループで20分ごとに各
テーブルを巡り卒業生とキ
ャリア形成について意見
交換する企画「ワールドカ
フェ」がもたれた。医学生
からは、「志望科の選択」、
「開業医か勤務医の選択理
由」、「学生時代での人との
交流の重要性」などについ
て、各テーブルで活発な意
見交換がされた。老若男女
が一堂に会し、虚心なく話
し合える至福の時間とはこ
のことであろう。語りつく
せぬことも多々あったが、
鈴木一郎先生の挨拶で閉会
となった。

写真右から

前列・甲斐心皓(医1)、沢
田大地(医1)、布施和華子
(医1)、石毛昭太(医1)
二列目・田川まさみ(昭56)、
田邊政裕(昭49)、大川玲子
(昭47)、中村宏(昭43)、鎗
田努(昭41)、市川邦男(専
25)、鈴木一郎(昭42)、鈴木
弘祐(日本大・39)、中野義
澄(昭45)、浅野武秀(昭44)、
神崎頼仁(昭46)、勝呂徹(昭
47)
三列目・菱木知郎(平5)、
星岡佑美(平24)、鈴木崇浩
(平29)、関口縁(平16)、古
関明彦(昭61)、石毛尚起(昭
54)、伊藤彰一(平10)、安西
尚彦(平2)、小川真(昭57)、
今関文夫(昭54)、丸山浩昭

58、山本和夫(昭51)、杉田
克生(昭54)、永井敏雄(昭
60)、花岡英紀(平5)、山井
悠吉(平27)、広瀬彰(昭48)、
鈴木修一(平9)、守屋拓朗
(平14)
最後列・船津悠也(平28)、
吉澤和絃(医2)、新井和樹
(医2)、本吉亮(医4)、大
澤健太(医5)、時友陽菜(医
3)、中曾根広拓(医3)、森
本大(医3)、伊藤美羽(医
3)、佐藤奈緒(医3)、大谷
祐介(医4)、結城駿(医4)、
大八木宏樹(医3)、佐粧楓
(医3)、岡本健人(医3)、
佐宗薫(医3)

(杉田克生)

お知らせ

ののほな同窓会
事務局では、卒業
年次別クラス名簿
リスト、地域別会
員リストおよび郵
送用住所ラベルを
ご希望により作成
いたします。詳細
は同窓会事務室に
お問い合わせくださ
い。

お詫びと訂正

175号
29面
ののほな同窓会員の千
葉大学医学部附属病院
受診に際してのご案内
受診方法
初診に係る特別料金
平成28年4月より
(5,400円)
←
(10,800円)
お詫びして訂正させて
いただきます。

2017年 第42回
ののほな美術展
—千葉大学医学部OBによる美術展—
9月25日(月)~10月1日(日)
AM11:00~PM6:00 最終日4時

初秋の候、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。
例年通り下記の会場で、第42回展を開催いたします。
ご多用中恐縮ながら何卒ご高覧賜りたくご案内申
上げます。

銀座 銀座通り 向ひまわり
ギャラリー向日葵
〒104-0061 東京都中央区銀座5-9-13
銀座第五ビル2F
TEL 事務所 03-3573-1680

クラス会

五五会(昭30)

1955年卒業の五五会は、一昨年、卒後60年を区切りとし、後は付録の有志の集まりとして続けて行くことにしている。付録1年目の昨年は千葉に集まり、大学の新しい同窓会館で行ったが、今年はまた東京に戻り、6月11日(日)に銀座「花郷」で開催された。ここは壁、天井一面が華やかなステンドグラスで飾られ、ハープなどの演奏を聴きながら京料理を味わうという結構な雰囲気の中で、特にご婦人方には、楽しんでいただけたように思う。今回は会員14名、同伴夫人7名の計21名の出席となった。会員の年齢は皆80代後半となり、昨年11月の日本医師会設立記念医学大会に際しては、石神一良、高橋康、古屋大雄、南園義一、横田俊二の5君が米寿で顕彰されたという。一方では、今年になって丸川和太、高橋英男の両君が鬼籍に入られて、当初の同級生105名のうち物故者は59名を数えることとなった。また、全く連絡の取れない消息不明

が3名おられる。会に先立って亡くなられた両君と、1月に大雪の事故で急逝された南園夫人のご冥福を祈って黙祷を捧げた。

伊藤敏夫会長の挨拶、永野俊雄前会長の発声で乾杯のあと、歓談となった。近況報告では、やはり自らの体調の具合が主になって、皆、何らかの病気を抱えて余生を送る苦勞に話が進んでいく。心臓、脳の血管障害や、腰、膝の障害など、高齢者につきものの疾病が表面化して、治療中という人が年々増えていくのも当然である。それでも、しっかりと旅行やゴルフなど楽しんでるようである。また、いまだに現役として毎日診療に従事しているという人も何人かおられる。歳の取り方も、余生の送り方も人様々だが、数年先の予測がつかなくなっているのは皆同じ思いである。様々な話題に話は尽きない。

五五会では会の開催に合わせて、毎年会報も出して、会への出欠に拘らず近況報告などの寄稿を載せている。会には欠席だが近況を寄せられたのは15名で、体長が悪かったり、遠方に出てくるのが億劫との人が多い。また、長年に亘り全く返信の無い人も大体決ま



っていて、やはり今年は13名であった。会に出席、誌上参加のみ、返信の無しがそれぞれ同じ位というのも、この年代ではそんなものかなと思われるのである。来年もまた、少しでも多くの仲間との再会を祈念して、五五会は散会となった。

写真右から
前列：永野夫人、滝口夫人、

滝口光雄、村瀬靖、伊藤夫人、藤山夫人、伊谷夫人、村瀬夫人、中野夫人
中列：中野政雄、志村昭光、新井多喜男、伊谷昭幸
後列：横田俊二、加濃正明、藤山嘉信、清水良平、永野俊雄、高橋康、伊藤敏夫、浅見敦
(藤山嘉信)

とちぎ りのはな

平成29年 第14号

とちぎ りのはな

平成29年 第14号

栃木県のはな会
千葉大学医学部のはな同窓会栃木県支部

とちぎ りのはな 第14号

目次

巻頭言	細尾 秀彰(昭44号)	1
総論	平成28年度 栃木県のはな会 総会プログラム	2
	平成28年 会計報告	3
	監査報告	3
	総会写真	4
特別追加1	国際リウマチ診療の進歩とは何か	11
特別追加2	健康性心疾患における抗血栓療法について	12
	高齢化になる生活、ならぬ生活	13
特別追加3	腎臓科大賞	15
	上野賞助産院	17
	栃木県立がんセンター	18
	国際医療福祉大学産科病院	19
	自治医科大学	21
	県立会野総合病院	23
	とちぎ和歌館だより	24
	とちぎメディアカルセンターしもつが	25
特別追加4	吉田敏彦目を懐か	27
	藤野武先生を懐か	28
	後藤山政先生を懐か	29
	明石康三先生を懐か	30
特別追加5	日職大工のすずめ	31
	懐か懐か	32
	はじめてまして	34
特別追加6	懐か懐か 懐か懐か	36
特別追加7	懐か懐か	37
特別追加8	懐か懐かのはな会 総論	40

編集：元栃木県医師会 会長 片山 一郎

ゐのはな37クラス会 (昭37)

今年初めての真夏日となつた平成29年5月20日(土)5時から、国民皆保険制度導入の翌年卒業、55年目のゐのはな37クラス会を帝國ホテル東京で開催した。亥鼻山の共通言語をもつ24名が出席。常任幹事(杉岡昌明)より昨年度クラス会収支報告、会員の住所変更(閉院等)、亥鼻キャンパスと大病院の現況と平成33年を目途に旧病院(私たちの学び舎・レガシー)が思い出深い野球場へ移転新築する等。出席率47%(案内状51名発送)、昨年より9名減、6名の返信無し(消息が気懸りだ)と開会の報告と挨拶、21名の物故会員へ黙祷を捧げ懇親会へ、司会を岩倉弘毅君(常任幹事)と交代。

乾杯の発声は旭日双光章を今春受勲した伯野中彦君、叙勲前後の細かいエピソードを皇居参内まで含め語つたが叙勲記番号がなんと1千2百万を超えていると畏れ入った。恒例の各自近況スピーチでは、入枝幸三郎君、井坂誠二君は閉院、井坂君は水戸から東京駅前の八重洲へ転居、「貯めたワインと腕自慢の料理でもてなすので遊びに来てくれ」と。

石山淳一君は学生時代からの肢体不自由児・者奉仕活動から、精神科医師の今は認知症カフェでボランティア活動をしている、頭が下がる。土井修君現聖路加・放射線診断部長)は今なお、遠隔デジタル画像診断業務に従事しているが、近い将来、長足の進歩を遂げているAI(人工知能)が、将棋と碁の世界のように取って代わる可能性もあると。最も嬉しいことは、進行すい臓がんで2年5か月前、全摘手術(肝胆脾外科宮崎前千葉大教授執刀)を受けた伊東治武君は体重も増え、彼曰く、マーカー、PETとも全く再発兆候はないと元気な姿でワインを嗜んでいたことだ。8割近くはシフトダウンした現役を続け、口コミ、フレイル克服には、夫婦でゴルフ、旅行、家庭菜園とシニアライフを楽しんでいる。運転免許証を返還している会員も多く、岩倉君の返還証明書は都内では幾つかの特典があるようだ。震災・原発被爆者支援の福島へ通っていた熱血漢の元医学連中執松江寛人君は奥様からの返信に、今年3月脳出血(左)手術、5月11日療養病棟へ転院予定とあった。後遺症が心配だがリハビリに専念して早く社

会復帰してほしい。宴会はフリードリンクの着席ピュッフェだが、飲食の量、特にアルコール類は激減してきた。お開きは、例年の如く油井真知子さん指揮での全員合唱だが、今年の世界でナシヨナリズムが台頭しているからか、誰かが「君が代」を歌え!ということ。で国家斉唱、参加者が20名を切るまで傘寿を超えてもクラス会を毎年やれとの意見なので来年の再会を約し、記念写真を手に散会した。学生時代にタイムスリップ



した亥鼻山の仲間は何時會つても気兼ねない。
写真右から
最前列・杉岡昌明、黒岩璋光、福士和夫、伊東治武、油井真知子、安達恵美子、矢野靖子、岩倉弘毅
二列目・石山淳一、瀬川襄、土井修、柳沢健一郎、田島誠、大野孝則、日浦利明
三列目・入枝幸三郎、山根友二郎、井坂誠二、大原啓介、油井信春、森豊
最後列・伯野中彦、中村嘉孝、勝田貞夫
(杉岡昌明)

参旧会 (昭39)

一昨年の成田佐原方面の1泊旅行、昨年は都心のホテルでと毎年開かれている。交通の便を考えると、今回も都心で集まることにして、場所は皆が知っているだろうと、地図も書かなくても良い、日比谷公園内の松本楼で、量は少なくとも美味しいものをと連絡した。

この会の直前、重松秀一さんが病理学会が終わった翌日、5月4日脳出血で亡くなられた。

追悼の黙祷の後、ゐのはな同窓会の活動の話を始めに、出席者の現況話すことは何でも良い等の報告して頂いた。遠くは徳島から2泊3日の人、茨城から不随意運動で動けないが、同じ茨城の会員の車で参加、少し早めに着いたから、公園を散歩(車椅子)した友。介護タクシーを借り切つて参加した人。地下鉄で来たのはいいが、地上に出るのに階段しか無く、配偶者に送つて貰つて来た人、などなど。

8人の丸テーブルを4つ用意しての集まりであったけれど、となりの人が用があると、スート手助けして、幹事はこれが仲間なんだと



納得し、有り難いことだと、ワインを又一口飲み込んだ。参加したくても、激しい腰痛や、病の後遺症で残念だった人。現在リハビリ中の人、又、医師会の当番医でも出られない人の欠席など。どの連絡も共有された。参旧会の地方会も存在し、稲毛地区在住の会員の任意団体は年4回くらいの開催で、会場は手頃な居酒屋さんとのこと。前回の主題は日本酒の醸造元についての蘊蓄だったそうだ。

皆さん楽しく過ごされて、無事にお帰りになりました。後日、事故等の報告も無く、安心しました。

写真右から

前列・本村八恵子、山下明美、川西恭子、額賀章好、富岡玖夫、宍戸英雄、木内政寛、大塚嘉則、根岸敬矩、後列・宍戸夫人、塚田夫人、永山恵美子、万本夫人、深尾夫人、崎山樹、村上信乃、鈴木守、林學、鈴木博一、碓井貞仁、阿部一憲、深尾立、遠藤毅、伊藤晴夫、山口正敏、山下武広、山本弘、上原朗、山本夫人、塚田正男、万本盛三、河野守正 (河野守正)

ちよに会(昭42)

卒後50周年記念クラス会

初夏の日差しが燦々と降り注ぐ下、平成29年6月4日に卒後50周年目の「ちよに会」を開催しました。昨年と同様、医学部と新病院への見学を計画し、中山医学部長のご高配により医学部事務局長野田和宏さんに案内してもらいました。当日の見学参加者は26名で、最終的な出席者総数は35名(現存会員の半数)となりました。

午前11時に医学部本館正面玄関に集合し、まず50周

年の記念として私たちが寄贈したホールクロックを見てもらいました。そこには下記のような記録とともに黒光りした等身大の立派な時計が力強く時を刻んでいました。

【寄贈 卒後50周年記念として寄贈します。】

平成29年4月1日

昭和42年医学部卒業生

(ちよに会)一同

次に医薬系総合研究棟Iの7階で、千葉大学免疫学の永い伝統を引き継いだ、「免疫システム調節治療学」を推進する「リーダー養成プログラム」の説明を免疫発生学准教授木村元子さんから受け、細胞解析教育ユニットや免疫細胞治療実験室で特殊な共焦点顕微鏡や超解像顕微鏡を見せてもらいました。

その後、青々と生い茂る桜並木の連絡道路を経て新救急外来棟(仮設)に行き、山本病院長のご高配で救急集中治療科医局長立石順久さんに案内してもらいました。当日の外来では、早朝に発生した白子町の交通事故、患者者の減圧開頭中であり、臨場感あふれる中で大病院の救急対応の現状や施設・設備の説明を受けました。次いでひがし棟のヘリポートに登り、千葉市街を

眼下に見ながら遠く筑波山を望み、快晴の眩しいばかりの太陽の下で記念写真を撮りました。以上の見学を通し同級生みんなが感じたのは、日夜一生懸命がんばっている後進や母校のため

に、われわれOBが何をしておられるのか、少しでもお役にたてるようなサポートは何かなどを考える良い機会になったと思います。12時半に同窓会館へ戻り、見学ツアーに参加できなかった人



った人たちを交えて集合写真(小柳朝明君撮影)、そして「50周年記念ちよに会」を開催しました。まずこの日のためにわざわざご出席頂いた、済陽高穂千葉大学

助君(平成29年5月)については矢崎浩君からの連絡文が紹介されました。これで42卒94名中22名が幽明界を異にしたことになりました。

次にメダルと感謝の贈呈に移り、一人ひとりに授与して頂く予定でしたが、「幹事が代表でもらえ」という声と時間の都合から、私が代表となり済陽会長から直接手渡しして頂きました。感謝状には「卒後50年の長きにわたり社会に貢献し、あのはな同窓会の発展に寄与し…」と記され、メダルには表面に「医学部本館正面像と、裏面に「獅胆鷹目行以女手」からの獅と鷹の絵が刻まれたの川越和子さんと福岡からの牧野英一君でしたので、代表して牧野君に乾杯をしてもらい懇親会に入りました。しばらくぶりに会った同級生同志の明るい歓談が続いた後、今回出席者の35名に各自の近況報告を順次述べてもらいました。医師

次いで庶務報告に移り、最近の物故者3名の報告につき全員で黙とうを捧げました。秦維郎君(平成28年、没月日不詳)については伊藤達雄君にご家族からの情報を、福田武雄君(平成28年9月)については門馬公経君から詳細な報告を、宮内倉之彦

写真右から
前列・小柳朝明、川越和子、森田喜崇子、能勢晴美、伊佐治尚文、谷口克、済陽高穂、あのはな同窓会長、大沼直躬、忍頂寺紀彰、藤沢武彦
二列目・笠貫宏、河野泉、片倉透、板谷喬起、関隆郎、森田清、小林茂雄、大場俊英、本多陸人、服部孝道、高崎健、林龍哉、守屋秀繁、藤田優三
三列目・太田東吾、笠貫君のうしろ。ヘリポート写真の後列右から3人目、龍野勝彦、渡辺道典、西牟田敏之、高橋弘昭、伊藤達雄、牧野英一、宮坂斉、宮本忠昭、鈴木一郎、更科廣實

述べてもらいました。医師



としての仕事の継続や研究所での現状、職場での問題や課題、これからの跡継ぎや育成のこと、ゴルフなどの趣味や健康法、家庭の内情や家族のサポートなどなど…。医師は国家財産といわれています。ほとんどの人がそれぞれに適った仕事を続け、今も現役の医療者として社会に貢献されている人が多くその努力に頭が下がりました。ただ、思いのたけを言おうと長々とマイクを握っている人も多く、二時間近い時間が経ってしまいました。ある仲間がいみじくも、「みんな勝手なことを聞いてくれる人がいないんだな」と述懐しておりました。それでもとても楽しい会となり、あつという間にお開きの時間が迫りました。最後のト리는永久幹事で日本相撲協会横綱審議委員会前委員長の守屋秀繁君にまとめてもらい、今話題の「横綱・稀勢の里」などについてマスコミでは伺い知れない裏話を披露してもらい盛り上がりました。

次回はお願ひし、東京での開催計画を報告してもらいました。交通便利な会場はどこも結婚式優先でなかなか予約がとれずこの時点ではまだ未確定とのことでした。

たが、この日の帰宅途中数か所の会場を訪問した結果、2018年6月3日・上野精養軒に正式予約が取れたとの報告をもらいました。後日同級生のみなさんに案内が届くと思います。

中締めは前年度幹事の伊藤君にお願いし、これからも健康に気を付け少しでも永く社会に貢献できるようにがんばり、また元気で再会しようという誓い、合いました。名残り惜しい時間であつという間に過ぎ、感謝状とメダル・本日の集合写真などを手に親友と伴に三々五々の解散となりました。去り行くみんなの後ろ姿を見送っていて、来年もまたこの中の何人かは会えなくなるのかな?と思うと、なんとも言えない重い寂寥感に襲われたのは私一人ではないと思います。やはり楽しいクラス会をできるだけ長く続けたいと思いましたが、終わりになりますが、今回のクラス会の成功は沢山の方々のご援助に負うところが大きく、特にののな同窓会会の佐藤さん、ならびに終始一貫ビデオ撮影してくださったののな同窓会・広報の高木さんにこの場を借りて感謝申し上げます。

会・他大学等にてちよに会の動画公開。
(更科廣實)

獅子の会(昭44)
台湾旅行

昭和44年卒のクラス会獅子の会が、毎年ではありませんが、メンバーの勤務地や、出身地を訪問しています。この企画は、20年前、夫の吉井與志彦が琉球大学脳外科へ赴任し、沖縄で開催されたのが最初でした。その後、香川県金毘羅宮、静岡県清水市、つくば市、大津市、千葉市、伊東市、長野市、新潟県長岡市など、それぞれの勤務地のメンバーが知恵を絞って企画しました。

参加者は、各自の都合によりまちまちですが、今回は連れ合いを含め、25名でした。

今回の台湾企画は、9年前に台湾東部を訪れてからの二回目です。

獅子の会には、男性2人、女性3人の台湾からの留学生がいて、一回目の幹事の彭さんは他界されました。今回は最高齢の陳さん(東山義龍)が80歳で、まだお元気なうちに、台中出身の中林清美さんの尽力で、台南から台中を回る企画でした。



2017年5月3日8時50分羽田発、11時30分台北着。美味しい台湾料理のランチを、中林さんの弟さんに御馳走になりました。

新幹線で台南着17時11分。日本統治時代に出来た林デパートを散策。夕食はホテルで、その前に写真撮影。

4日は台南市内観光、午前中は延平王洞、孔子廟。午後は億載金城、安平古堡、安平樹屋を巡りました。

台南市は17世紀にオランダ人が、東洋への足掛かりを求めて居留したところだ。古都として、古い史跡や街並みが残っています。

5日は専用車で台中に向かいました。台中では、近代的な国立台湾美術館を見学し、日月潭に向かいました。

日月潭は、海拔727mにある高山湖で、1934年に水力発電所建設に伴いダム湖になり、面積が四倍になりました。遊覧船で一

周し、文武廟に行きました。今回の訪問地は、台湾旅行の初心者には味わえない、歴史を感じさせる奥深いものがありました。それに加えて、毎回味わった台湾料理の食材の豊富さ、調理方法の多彩さには皆感服し、体重1、2キロの増加はあつたのではないのでしょうか。

卒後48年としては、高血圧、糖尿病、腰痛を押しての参加者も多かったのですが、宴会を重ねるうちに、青春の気分がよみがえり、楽しい旅行でした。

毎回のことですが、クラス会としての旅行は幹事となった方の負担が大きく、この度は中林清美さんには大変お世話になりました。参加者を代表して感謝いたします。

写真右から
前列：西島浩、豊島まゆみ、東山都紀、中川夫人、堀江夫人、坂元健彦、吉田操
二列目：渡辺孝太郎、吉田夫人、藤田仁子、山本健介、土川秀紀、中林清美、西嶋夫人、吉井與志彦、吉井田美子
三列目：藤田正樹、東山義龍、星山圭敏、渡辺夫人、篠原初江、篠原義隆
最後列：堀江浩、土川夫人、中川邦夫
(吉井田美子)

ご住所・ご勤務先等に変更がございましたらみのな同窓会にご一報ください。

電話 (043) 202-3750

FAX (043) 202-3753

e-mail : info@inohana.jp

郷士会(昭54)

平成29年7月11日西千葉駅近くの鮎割烹みどりにて、郷士会(昭和48年入学or54年卒業)を開催した。今回は、4月に国立病院機構千葉医療センター院長に就任した杉浦信之君の祝いも兼ねて、千葉市近隣在住者ならびに旧第一内科関連の同期生に集まってもらった。



幹事杉田克生の開会挨拶後、杉浦君と同じ一内科出身の今関文夫君の乾杯で会は始まった。沼田勉先生から、国立千葉病院時代からの杉浦君の温厚なる仕事ぶりや職場での苦労話などが披露された。その後参加した21名から杉浦君への祝いの言葉に加え、各自の近況報告などが話された。定年に近い者もいる中で、誰もが気持ちだけは暑さを吹き飛ばす雰囲気の中、飲み放題のお酒、勝手気ままなおしゃべりなど楽しい時間を過ごした。東京都児童相談所長の桜山豊夫君、帝京大学病理学教授の近藤福雄君などからは東京での勤務状況の話もあった。お開きの前に杉浦君から、院長就任の経過、院長職の職務内容、時に腰痛に打ち勝ちながらの勤務に一同頭が下がる思いであった。今回は幸い新たな物故者もなく、次回も元気に再会できることを願いながら閉会した。

写真右から
前列：宮崎泉、吉田明子、石毛尚紀、杉田克生、杉浦信之、高田郁子、嶋田耿子、角南祐子
二列目：梶川工、小林進、白土英明、高田啓一、櫻山豊夫、
三列目：田川雅敏、齋藤正仁、沼田勉、内山勝弘、近藤福雄、今関文夫、下条直樹、篠遠仁
(杉田克生)



平成6年卒同窓会

平成29年4月29日、心地よい風の吹く快晴の中、千葉県千葉市の京成ホテルミラマーレ、スカイバンケット・イル・ミラマーレにて、浦野友彦君の国際医療福祉大学医学部老年病科老年病学講座主任教授、大鳥精司君の千葉大学大学院医学研究院整形外科教授の合同教授就任祝賀会兼平成6年卒同窓会が催されました。お二人が同時期に教授に就任されたという大変喜ばしい席ということもあり、総勢48名と多くの方が参加となりました。諏訪園靖君の司会のもと、確井宏和君の大変正直な笑える挨拶、次いで本間(鈴木)澄恵さんの心温まる挨拶にて開会いたしました。愛知より駆けつけた大塚秀美さんの音頭で乾杯となりました。皆さんともに、浦野君、大鳥君の大変優れた能力・業績、普段の並々ならない努力、人望の高さ、人柄の良さを絶賛し、お二人の将来のますますの活躍を期待する内容でしたが、席席の会場でしたが、会場の途中からはほとんどが立食の状況で、会場中が懐かしがる声、笑い声が上がっておりました。会

の終盤では大鳥君より現在の整形外科教室および大学の現状を交えた近況報告および今後の抱負について、また浦野君より学生時代のエピソードを含めて、卒業から老年病科に勤めるきっかけから、教授就任に至る現在の状況までの経過を、それぞれ楽しく挨拶されました。その後も盛況な歓談がなされ、あつという間の経過の後、柏戸孝一君の閉会の挨拶にて閉会となりました。その後、千葉駅近くで行われた二次会にも浦野君、大鳥君を含め総勢30名が参加し、お二人への記念品の靴のお披露目もされて、大変盛り上がりしました。大変忙しい中、会場確保など主な取りまとめを担当された青木保親君ありがとうございました。

写真右から
前列：黄舜範、高森尉之、大塚秀美、大野一人、諏訪園靖、浦野友彦、大鳥精司、本間(旧姓鈴木)澄恵、佐々木(旧姓古瀬)陽子、笠川(旧姓長谷川)規子、三枝紀子、鎌田(旧姓松浦)千華
二列目：田原正道、丸田哲郎、奥川忠博、國吉一樹、藤井隆之、確井宏和、寺本靖、小谷俊明、河野世章、長哲、加藤直子、永沢(旧姓白石)佳純

大鳥精司先生・浦野友彦先生 教授就任祝賀会 兼 平成6年卒同窓会



三列目：深見悟郎、松戸裕治、黒沢永、平野聡、黒岩教和、鶴飼伸一、福田勝之、指山浩志、網代洋一、宗永元、植田琢也、蓑輪(旧姓加藤)百合子、香西由美子、笹村佳美
四列目：五十嵐正喜、蓑輪勝行、笠川隆玄、青木保親、木ノ下敬彦、齋藤武、秋池太郎、東(旧姓加治木)秀隆、柏戸孝一、門野源一郎
(田原正道)

研修プログラム

麻酔・疼痛・緩和医療科の紹介と 麻酔科初期研修の勧め

千葉大学医学部附属病院
麻酔・疼痛・緩和医療科

科長(教授) 磯野史朗(昭59)

「いのちを守る」「苦痛を和らげる」これらを達成することが私たち麻酔科医の使命と考え、臨床・研究・教育活動を行っています。千葉大学病院では、先進的な外科治療が行われるばかりでなく、重篤な全身合併症を有しているため他院で手術ができない患者さんも多く集まります。これに対応するためには、麻酔方法に工夫を凝らすということではなく、全身合併症の本質を理解し、術前の綿密な計画に基づき、かつ術中に発生する予期しない事態へ柔軟に対応する全身管理、危機管理能力が求められます。麻酔科医の仕事は、毎日が新鮮かつ挑戦的な知的協働作業です。」とても自分の能力では無理！」と考えるのが、むしろ正常な反応です。複雑多岐に亘る疾患を一人の麻酔科医が管理することは不可能です。むしろ、同僚や他科専門医、多職種と連携し、チームとして協働することが私たちの任務遂行に最も重要なことです。手術室内のコンダクターとして、仲間と協力し、楽しくいい仕事を成し遂げた時の達成感は、皆さんが医師を志望した根本的な動機に一致するものではないでしょうか。

千葉大学病院やその関連施設での麻酔科専門研修では、小児麻酔や心臓麻酔など専門性の高い症例をそれぞれの専門領域指導医から系統的な教育を受けるなど、多様な症例を数多く計画的に経験することで臨床能力を高めることができます。仲間となる麻酔科専門医の育成と就職を促進するため、教室同門が勤務する20以上の関連施設は、「Yes, We CAN!」の合言葉(オバマ大統領より先に使用し始めました)で結ばれChiba Anesthesiologists Network(CAN)を形成し、セミナー開催や同門の懇親など生涯教育と生涯連携を行っています。麻酔科医の活躍の場は手術室だけではなく、千葉大学病院を含めたCAN施設では、集中治療や救急医療、緩和医療やペインクリニックなど幅広い領域での研修、活躍の場が共有可能です。仲間の個性や考えを尊重しつつ能力を發揮し、研究や臨床でもオープンに様々な人の考えを受け入れる姿勢は当教室の伝統で、そのためか、同門とは長く支援しあう関係となります。

私たちは、生涯に亘り成長し続ける麻酔科医になるためには、科学的な思考能力、研究マインドが必要と考えます。研修の早い段階から臨床研究に参加し、研究マインドを身につけることで、「考える麻酔管理」が実践できるようになります。千葉大学麻酔科は、呼吸・気道管理研究のメッカとして世界的にも知られ、その成果は日本麻酔科学会気道管理ガイドラインとして結実させることができました。また、非接触生体情報モニターの開発や小児麻酔導入アプリ開発など臨床に直結する産学共同研究も行っています。現在、12名の大学

院長が臨床医としての仕事を継続しながらこれらの研究を行っています。初期研修の2年間は、その後の皆さんの人生に大きく影響する大切な時間です。どのような診療科に進んでも、医師である限り「いのちを守る」「苦痛を和らげる」ことを常に念頭におくことは重要です。少なくとも2か月間の麻酔科研修を初期研修プランに組み込むことは、その後の成長に大きく貢献できるものと確信します。その麻酔科研修によって、麻酔科医という職業の

地域医療機能推進機構(JCHO) 船橋中央病院
副院長・千葉大学医学部臨床教授 深澤元晴(昭63)

当院は、約70年前の昭和24年に社会保険病院として設立され、船橋市では最も伝統ある病院の一つです。平成26年4月からは、厚生労働省直下の独立行政法人である地域医療機能推進機構に改組され、現在に至っています。船橋市は、東京近郊の人口約63万人の中核市で東葛南部医療圏に属しています。病床数は464床で、健康管理センター、周産期母子医療センター、

内視鏡センター、インプラントセンター、附属看護専門学校を併設し、船橋市では最大規模の中核病院・急性期病院となっています。常勤医師は約60〜70名で、18診療科が揃っています。救急では2次医療を担っており、年間2000台を超える救急車を受け入れています。当院の特色として、消化管内視鏡が上部・下部合わせ、年間1万件を超える症例があり、研修医も積極

的に参加しています。また、市内で唯一の血液専門診療を行っています。周産期医療では、母体搬送件数が県内第1位で、高いレベルの医療を提供しています。初期研修医は、平成30年度では基幹型4名(1学年)、千葉大学医学部附属病院との協力型2名を受け入れます。応募してくれる学生は、近隣だけではなく、全国からみられます。初期研修では、プライマリケアの実践に重点をおいて指導しています。当院は、研修医の数が、他と比べ比較的多くないため、マンツーマン指導体制を行っています。このため研修医の各力量に合わせ、研修が可能です。また、手技などは、他の研修医と症例の取り合いになることはなく、かなりの件数を経験できます。どんどん積極的に経験してもらおうとされています。また、研修スケジュールは、フレキシブルに調整できるようにしています。当直は、必ず指導医とペアで行い、安心して当直業務をこなせる体制をとっています。また、定期的に研修医ミーティングを開き、研修の進捗状況などをチェック、同時にアドバースなどを行い研修が円滑に行えるよう指導しています。なお、小児科・精神科・

院生が臨床医としての仕事を継続しながらこれらの研究を行っています。初期研修の2年間は、その後の皆さんの人生に大きく影響する大切な時間です。どのような診療科に進んでも、医師である限り「いのちを守る」「苦痛を和らげる」ことを常に念頭におくことは重要です。少なくとも2か月間の麻酔科研修を初期研修プランに組み込むことは、その後の成長に大きく貢献できるものと確信します。その麻酔科研修によって、麻酔科医という職業の

やりがいと重要性を感じていただけることを祈りつつ、筆を置きます。



鼎 談

ベルリンならびにゲッティンゲンから ドイツ医学の源流を辿る

高野 光司 (昭33)
千里 (旭川医大・昭59)
進行 杉田 克生 (昭54)



高野 光司 略歴
1958年 千葉大学医学部卒
1961年より 千葉大学助手、講師、助教授を経て
1971年 ゲッティンゲン大学終身職教授
医学部運動神経生理部長 (後に病態神経生理部長)
1996年 定年により部長職解任

杉田：本日は高野光司先生、森千里先生をお招きしてお話を伺います。両先生はドイツ医学にお詳しいので、ゲッティンゲン医学、ベルリン医学についてお話しいただき、日本の医学や千葉医学への影響、基礎医学を学ぶ意義や今後の日独医学交流などお話しただけだとお思います。まずは、高野先生からゲッティンゲンの医学の歴史についてお話しください。

高野：医学は、生理学と解剖学が父と母と言われている。ゲッティンゲン医学の歴史について

ます。生理学者としては幸せなことに、ゲッティンゲン大学(1737年設立)ができた時に、解剖と医学と植物学の教授として、当時ヨーロッパの碩学と言われていたオランダのブルーファーフエ、その第一の弟子だといわれているハララーが、大学ができる前から教授となっておられました。そのハララーが、私の専攻している神経生理学の源流となり、それは医学全体の源流でもあるといえるのです。ドイツの生理学はゲッティンゲンで始まったともいえます。当時プロイセンの首都ベ

ルリンには大学はありませんでしたが、学問は進んでいて科学アカデミーやシャリテという病院もありました。後年そこに大学ができたのでシャリテは大学病院となったのですが、人々は愛着を持ってシャリテと呼んでいたのです。当時プロイセンにはハレ大学(1690年設立)という、神学と王様の権力から解放された近代的な大学がありました。そのハレ大学を模してゲッティンゲン大学が設立されたのです。

当時の古典的な大学は哲学、法学、医学、神学という4学部が主ですが、神学の教授しかいないところもあり、神学はとも強かったのです。ゲッティンゲンは神学の教授も少なく、新しい考え方のもとに学問の自由を求めて作られた大学でした。そこで勉強したのがウィルヘルムとアレキサンダーのフンボルト兄弟で

したが、フランス革命のさなか退学し、その後ウィルヘルムは政治の世界へアレキサンダーは学者として活躍しました。杉田：この当時ドイツでは医学校がかなりあったのですね。しかし、ベルリンには全くありませんでした。高野：ベルリンには全くないです。ナポレオンの時代に多くのドイツの大学が潰され、ハレも潰されましたが、ゲッティンゲン大学はヨーロッパの大学というので何とか残った。ベルリンには、1806年ようやくゲッティンゲン大学を模して、時の皇帝フリードリヒ・ウィルヘルムの名を付けた大学が創設されました。ところが、第二次大戦後ベルリンは分割され、東には皇帝の名前を嫌い改称したフンボルト大学、西にはアメリカのフォード財団がお金を出してベルリン自由大学が創られました。シャリテは、フンボルト大学医学部の病院としてあったのです。

杉田：この病院の名称シャリテを、ドイツ語読みと英語読みとでいろいろ呼び方がありますが、Charité-Universitätsmedizin Berlinの殆ど直訳で、シャリテ・ベルリン医科大学としました。しかし、当同窓

会報172号で高野先生の記事「ベルリンの大学名について」を拝見し、日本語訳はどのようにしたらいいのか考えさせられました。高野：シャリテ医科大学とすると、あたかも医科大学があるように感じられますね。ベルリンにある大学附属病院でいいのではないかと思います。附属という言葉の方が良くないのかな。

杉田：附属病院というのは日本の言い方ですよ。医学というのは国によってシステムが違うので、日本語で訳す時には難しいですね。森：高野先生がこの日本語訳をお決めになって頂いて、それを私もそうですが千葉大学としては、今後使っていくのが良いと考えます。私はドイツ語と英語とを単純に訳してしまつたので、是非ご指導いただきたい。高野：現在シャリテはフンボルト大学及び自由大学共通の大学病院となつていま

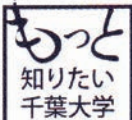
す。今後は「シャリテ大学医学部病院連合ベルリン」と呼ぶことではいかがでしょうか。



森 千里 略歴
1984年 旭川医科大学卒
1984年より 京都大学医学部助手、
1990年 米国NIH/NIEHSポスドク
1992年 京都大学医学部解剖学教室助教授
2000年 千葉大学医学部教授
2001年 千葉大学大学院医学研究院教授
2008年より 千葉大学予防医学センター長兼務

ミュンヘン、ライプツィヒ、ドレスデン、ベルリンで学びました。ミュンヘンでは衛生学のペッテンコッファー教授、ライプツィヒでは栄養学のホフマン教授、ベルリンではコッホの研究室で勉強させていただきました。コッホが1882年に結核菌を見つけた場所ですが、現在はフンボルト大学の一部です。フンボルト大学の正門を入ったところにある記念講堂の2階には、同大学出身者のノーベル賞受賞者の写真が展示されていますが、1902年にノーベル賞を受賞したコッホの写真も飾られています。私の祖父於菟(おと)の長

最初の協定校はドイツのゲッティンゲン大学



平成29年6月現在、学生交流協定校は、39の国・地域、234大学(機関)に及びます。その第一号は、昭和57年に協定を結んだゲッティンゲン大学でした。アラバマ大学(アメリカ)、昭と59年、湖南大学(中国)、昭和60年なども古くからの協定校ですが、グローバル化が急速に進んだこの10年で、その数は約5倍に増えました。留学は他に代えがたい経験です。積極的に挑戦してみませんか?(国際教育学部 見城悦治)



男は、1923年から2年間、ベルリンのカイザーウィルヘルム大学の解剖学教室に留学し、病理学で著名なルドルフ・ウィルヒヨウの息子、ハンス・ウィルヒヨウから解剖学を学びました。ちなみに、私の父の名前は樊須(ハンズ)でしたが、祖父は自分の師匠の名前を自分の四男に付けたのかもしれません。

祖父は千葉大学医学部第一解剖教室の初代教授小池敬事先生(のちの千葉大学初代学長)と東大で同門で、ベ

ルリンに同じ時期におりました。ジーゲス・ゾイレ(戦勝記念塔を背景にして一緒に撮影した写真も残っています。ドイツ基礎医学と千葉医学との繋がりと、例えば、小池先生と私の祖父がドイツで学んだ解剖学をそのまま千葉で始めたことにも見られると思います。

祖父は帰国後、千葉大学(当時は千葉医専)の教授になるか、新設の台北帝国大学の教授になるか迷ったようですが、日本にいと常「鷗外の長男」という肩

杉田 克生 略歴
 1979年 千葉大学医学部卒業
 1987年 英国London大学PGMS Hammersmith病院Clinical fellow
 1988年 千葉大学医学部小児科助手
 1996年 英国Sussex大学Trafford 医学研究センターResearch fellow
 1997年 千葉大学教育学部助教授(臨床医科学)
 2001年より 千葉大学教育学部教授(基礎医科学)

高野・医学というのは人間の身体を取り扱う学問です。体の構造がどうなっているかわからないと始まらない。だから、解剖学は医学の母といえる。それに対して生理学は、健康なものが

高野・解剖と生理がなければ医学は始まりません。解剖はみなさんきちんと勉強しますが、生理はどうやって勉強しているかわからない、新しい学問ですから。

高野・生理学でいいですよ、第二次近衛内閣で文部大臣になった橋田邦彦という生理学者がおられます。第一高等学校の校長もされましたが、鈴木正夫先生(生理学第一講座第2代教授)の先生です。私は牢屋に入った教

授のこと(文部大臣のいた刑務所)千葉医学雑誌89巻2号61-65 2013・4・1)を書きました。それは橋田先生がストラスブルグで戦争により捕まってエスリンゲンの牢屋に入った時のことです。鈴木先生はライプツヒに留学されました。生理学はやはりドイツです。その頃の方々は多くドイツです。永井潜先生はゲッティンゲン大学生理に留学され、日本人として2番目に東大生理学の教授に就任された方ですが、鈴木先生のドイツ留学中に千葉で生理学を講義されていました。その後私たちのころまで、西洋医史学の講義をされました。ゲッティンゲンを「月沈原」と表現されたので「ゲッティンゲン」と誤って言われる元となったのかもしれない。

森・やはりドイツ医学の影響が千葉大の医学部や医学教育、特に解剖、生理では大きかったと思われれます。

高野・医学というのは人間の身体を取り扱う学問です。体の構造がどうなっているかわからないと始まらない。だから、解剖学は医学の母といえる。それに対して生理学は、健康なものが

杉田・80名で十数名といったのですか、今なら信じられないですね。
 森・今は130名で何名いるかといったところですね。高野・解剖と生理がなければ医学は始まりません。解剖はみなさんきちんと勉強しますが、生理はどうやって勉強しているかわからない、新しい学問ですから。

書がついてまわることに息苦しさを感じて、台北帝国大学を選んだのです。
 数年前、台湾大学を訪問した際、当時祖父が作成した発生学・解剖学のリーフレットを見せてもらったのですが、発生学はすべて手書きのドイツ語です。それを戦後、おそらく小池先生のご紹介だったと思われるのですが、千葉大学の解剖の非常勤講師として教えた際にも使ったようです。
 私が2000年に千葉大学に教授として赴任した時、何人かの退官間近の教授方から「学生のときに君のおじいさんに講義を受けたよ」「おじいさんの話し方に似ているね、早口でぼそぼそと話す」「おじいさんは黒板にチョークでさらさらと骨の絵を描いて、横にドイツ語で名前を記入していったんだ」と言われました。ドイツ医学、基礎医学が千葉大の医学の中に、小池先生や私の祖父を通して入ってきているように感じます。

高野・私は生理学のことしかわかりませんが、日本中そうだったでしょうね。森・いろいろなところでドイツ医学が千葉大につながるというところでですね。高野先生に今回こういうことをお話させていただいて、このような機会がないとドイツ医学が千葉大の医学の歴史の中でどう関係していたのかが埋もれてしまっていますね。

基礎医学を学ぶ意義
 森・現在日本で医学部に入学する方の中で、基礎医学に最終的に残るのは100人のうちせいぜい1名から数名というのが現実です。そうした中で基礎医学研究をするということは千葉大の中でも大事なことです。日本の医学部の中でも千葉大に來る学生のレベルは非常に高いものがあります。臨床を学びながら研究して、あるメカニズムを見つけていくという山中伸弥先生の

ようなケースも出てきています。
 千葉大学の医学の流れの中では、根本的には病気の原因を見つけるといった、研究や臨床と結びつく診断学、治療学、予防医学があります。発生も含めてですが、病気の原因を見つけていく学問というのは、臨床のことばかりではなく、そのバックグラウンド、基礎にあるところを学んでいただきたい。それが将来良いお医者さんになるためにも必要ではないかとは思っています。

杉田・80名で十数名といったのですか、今なら信じられないですね。
 森・今は130名で何名いるかといったところですね。高野・解剖と生理がなければ医学は始まりません。解剖はみなさんきちんと勉強しますが、生理はどうやって勉強しているかわからない、新しい学問ですから。

生理学は健全な人間の身体全体の機能を学ぶべきところなんです。そういふ分野などは、アメリカよりヨーロッパに目をむける必要があります。特に近代医学を日本はドイツから学んできました。日本とドイツは人口の規模も同程度で、少子高齢化、経済は割といいが右

日独医学交流

森・嶋外がドイツに行った明治の初めの時代から、ヨーロッパあるいは先に進んだ国から日本は学ぶということが多かったですね。私が医学部を卒業したのは1984年。1990年にアメリカのNIHに留学したのですが、当時の時代の流れは良くも悪くも「アメリカ第一主義」、多くの大学の研究者はアメリカへ向かいました。お金もあり設備も整い、研究もすごい勢いで進んでいる。ところが、今後の時代の流れは、アメリカのように経済、お金で換算してサイエンスを進めたり物を考える、オンラインマン、ナンバーワン、といったものから変わっていくでしょう。

ヨーロッパに目をむけると、フィロソフィーがベイスになっていく。これは私から見ればすごく新鮮で、フィロソフィーがあつて、学問、アカデミーがあつて、そこに医学がある。ヨーロッパは一国では生きていけないので、連合、連携が重要となる。そういう分野などは、アメリカよりヨーロッパに目をむける必要があります。特に近代医学を日本はドイツから学んできました。日本とドイツは人口の規模も同程度で、少子高齢化、経済は割といいが右

下がり、移民問題や民族問題、教育体制などの共通した問題点から学問研究をする上ではかなりタイトなネットワークを改めて作っていく時代ではないかと思えます。それが今後の人々にとっては重要なのではないかと考えました。

ヨーロッパ

パと連携して、千葉大の多くの医学学生、医療関係の人とにたく行つて、見てもらつて、経験、交流して感じてほしい。自分から「さあ勉強しよう」と思えば将来の千葉大、日本の医学が伸びて行くも

のと楽しみにしています。杉田・明治時代の人々は、ドイツからフィロソフィーを学んできたはずだったと思いますが、それが日本に根付かなかったのは残念です。思考する脳機能を知ること、生理学の一つだと思っています。高野・私はパーキンソン病になりました。これは非常に難しい病気ですね。今は、脳のことを通り越していろいろな生理学がありますが、脳のことをがっちり究明するのが神経生理学の使命だと思えます。

杉田

杉田・これからは日本の若い方々がドイツで学ぶのも意味があると思います。高野・私の頃はゲッティンゲンに3千人から行つておりました。森・現在シヤリテのキャンパスの中に小さなスペースですが、千葉大の講義はインターネットで聴講できるようにして日独交流を少しずつ進めています。年に1回、1週間くらい向こうの学生と千葉大の大学院生と一緒に講義を受けるプロジェクトを進めています。その時にはWHO(世界保健機関)からも職員に講師として来てもらつたりしています。一回目は講義と質疑程度でしたが、二回目はグループディスカッションを入れ、去年の三回目はドイツの先生のやり方でグループを作らせて、自分たちでテーマを決め、教室の外に行つてみてきた物をネタにしてディスカッションなどしています。学生も生き活きとして、日本では得られない経験ができています。



千葉大学サテライトオフィスが入った建物の前にて(2016年5月)

学 内 情 報

の は な 同 窓 会 支 援

第10回ちばBCRC

最優秀賞を受賞して

医学部4年 河野 健太



この度は、第10回ちばBCRC(Basic & Clinical Research Conference)最優秀賞をいただき、大変感謝申し上げます。本研究「The role of IL-21 signaling in a murine model of psoriasis induced by epicutaneous administration of Imiquimod」は、げつ菌類を用いた病態モデルの解析を通して、新たな治療方法や病態、発症のメカニズムに関する知見を提供することを目的に行つております。研究実施にあたり数多くのご助言や実験手法のご指導をいただきました。アレルギー臨床免疫学教室中島裕史教授、鈴木浩太郎先生はじめ教室員の皆さまにこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。魅力的な研究テーマをくだ

明日の健康をめざして 扶桑薬品工業株式会社 本社 社/大阪市中央区道修町一丁目7番10号 本社事務所/大阪市城東区森之宮二丁目3番11号

第15回 亥鼻祭開催のお知らせ

亥鼻祭実行委員会委員長

医学部3年 上條 恵莉子

来たる11月5日(日)に、本年度も亥鼻祭を開催する運びとなりました。亥鼻祭とは、千葉大学亥鼻キャンパスにおいて行われる医療系大学祭で、医学部・看護学部・薬学部の三学部が協同して実施しております。15回目を迎える本年度は亥鼻祭の開催が危ぶまれておりましたが、新しく1〜3

年が中心となり亥鼻祭実行委員サークルを立ち上げ、多くの方々のご協力により開催につなげることができました。新体制のもと、今まで先輩方が築いてくださった伝統を守りながら、新しい風を吹き込み、より多くの方に愛される学園祭を作り上げていきたいと思っております。本年度は昨年度まで

の企画に加え、留学生による出店や「レモネードスタンド」という小児がん患者さん支援の募金活動、西千葉キャンパス環境ISO学生委員会による企画、各学年による学年企画など新しい試みが多数あります。医療系大学祭であるという特徴を生かし、様々な切り口から医療に向き合い、来てくださった方に少しでも医療の魅力を感じていただけるような学園祭を目指していきます。ぜひ当日はご来場いただき、進化した亥鼻祭をご覧ください。

さらには昨年度に引き続き、本年度も「ホームカミングデー」が同窓会主催で企画されており、亥鼻祭当日に同窓会館にて行われ、ぜひお気軽に母校を訪れ、亥鼻祭のイベントにもお立ち寄り頂ければ幸いです。

これまでの14年間、亥鼻祭を開催することができたのも、同窓会の方々のはじめ、地域の方々や保護者の方々のご理解・ご協力のおかげです。この場をお借りして深く感謝申し上げます。支えてくださっている

一昨年来、同窓会の皆様より多大なるご支援をいただきました。第59回東日本医科学生総合体育大会通称「東医体」は、平成29年3月18日に閉会式を執り行い、昨夏の夏季21競技および12月と3月に開催した冬季22競技、計23競技、およびすべての行事を滞りなく終了いたしました。大きな事故

強化、脳震盪マニュアルの作成、そして何よりも東北医科薬科大学の新規加盟という前例の少ない難しい課題に積極的に取り組み、成果を上げることができました。今年の主管代表校である信州大学をはじめ「後輩」たちもしっかりと引き継いでいく所存です。

ホームカミングデイ開催について

ゐのはな同窓会常任理事 白澤 浩 (昭57)

母校に帰る日として、「ホームカミングデイ」を昨年より開催しております。今年も亥鼻祭当日に、ゐのはな同窓会館に資料を展示する同窓会ブースを設置し、会員休憩所として見晴らしの良い会議室を用意することとしました。また、学生と若手同窓会員による「ホームカミングパーティ2017」も予定しています。気軽に母校を訪れ、亥鼻祭のイベントも楽しめる日として頂ければ幸いです。



ホームカミングデイ:2017年11月5日

多のはな同窓会員の皆様を亥鼻祭にご招待

2017年11月5日(日)
(亥鼻祭当日)

● ホームカミング
パーティ2017

時刻: 3:00pm~

場所: 多のはな同窓会館



www.inohana.jp

医療系三学部による新しい亥鼻祭に来て、懐かしい緑深いキャンパスを散策してみませんか?

新同窓会館の同窓会ブースに休憩所を用意して、お待ちしております。是非、お立ち寄り下さい。お立ち寄り頂いた同窓会員には、記念品を差し上げます。

上映: 新多のはな同窓会館完成記念講演「箴言『獅膽鷹目行以女手』の日本への伝播とその漢訳者」(松本 明知先生、弘前大学名誉教授、日本

医史学会理事
展示: 135周年記念誌、オンライン同窓会報アーカイブ(DVD版)、白衣式DVD、各多のはな会支部会報、千葉大学医学部概要2017版、千葉大学医学部案内等



begin.continue
千葉大学大学院医学研究科・医学部

やけがもなく盛会のうちに閉会できたのは、我々の活動に惜しみないご厚情を注いでくださった同窓会員の皆様のおかげでございます。ありがとうございました。



第59回東医体閉会式の様子

本大会では熱中症対策の

きたいと感じております。学生一同、皆様のご来場を心からお待ちいたしております。

ゐのはな同窓会支援 第59回東医体運営本部 活動報告および御礼

第59回東医体千葉大学医学部運営本部

運営本部長 医学部5年 中村 俊介
財務局局長 医学部5年 高倉 大暉

だきました。第59回東日本医科学生総合体育大会通称「東医体」は、平成29年3月18日に閉会式を執り行い、昨夏の夏季21競技および12月と3月に開催した冬季22競技、計23競技、およびすべての行事を滞りなく終了いたしました。大きな事故

熱中症対策の

りがとうございました。今回の経験を糧に各人良医と
なるべくますます精進して
参りますので、今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

千葉大学医学部生が 人命救助で表彰されました。

平成29年5月31日(水)千葉大学医学部6年生、山岸航介さんが、人命救助を行った功績により、千葉市中央消防隊長表彰を受けました。

山岸さんは、平成29年2月4日(土)、千葉市大和橋バス停路上において心肺停止状態で倒れていた女性を発見、通行人に119番通報およびAED搬送を依頼するとともに、救急車が到着するまで心臓マッサージを実施し、迅速な人命救助活動に寄与しました。女性



中央が人命救助をした山岸航介さん

課外活動団体だより

世界の医療を考える会

医学部2年 代表 井原 紫逸

世界の医療を考える会、略して世界医療は170名近くのメンバーを誇るサークルであり、メンバーの一人ひとりが様々な活動に携わっています。サークルとしての正式な活動は、千葉大学に来た留学生との交流です。インジェ大学やマヒドン大学などの千葉大学との協定校からの留学生だけでなく、IFMSAやAMSAという学生のみで運営している団体を通しての留学生も毎年来るため、非常に多種多様な国の留学生と交流しております。

交流の具体的な内容としては、千葉駅周辺のご飯会と東京周辺への観光案内の二つです。留学生によって行きたい場所や、やりたいことも様々で、世界医療の活動を通して私自身も色々な場所へ行きました。初めて訪れる場所も多く、案内をしながら自分自身も観光を楽しむことができました。

留学生と交流するたびに思うのは、世界の広さです。

彼らと話す時、自分がこれまで当たり前だと思っていた常識が、外の世界では全く通用しないことに気付かされます。文化が異なると頭ではわかっていても、いざ話してみると、思わぬ部分で互いの考え方や文化の違いに気付き、とても新鮮な気持ちになります。

普段の生活では得ることのできな驚きや新鮮な気付きを経験できることが、このサークルの大きな魅力の一つだと思います。

また、世界医療を通して様々な国際イベントを知り、参加するチャンスを得られること

がもう一つの隠れた魅力だと思っております。例えば昨年度は世界医療に所属しているメンバーの一人の紹介で医学部の国際会議に参加するチャンスがありました。夏にフィリピンで行われた会議には8名、冬にオーストラリアで行われた会議には4名の世界医療のメンバーが参加しました。

さらに3月には交換留学で世界医療から6名の学生が台湾の国立成功大学を訪れ、1週間強の滞在で病院やホスピスの見学や病院長との会談、現地の医学士との自国の医療をテーマにしたプレゼンテーション&ディスカッションなどを通して、非常に貴重な体験をすることができました。今年度の8月に受け入れてくれた国立成功大学から10名の医学部生が千葉大学に留学するため、8月後半は彼らの受け入れが活動の中心になると思います。

今年度は千葉大学との正規の協定校以外にもIFMSAとAMSAという二つの学生団体のプログラムを通して昨年度以上に多くの留学生を受け入れる方針であり、7月までにはIFMSAから計7名、8月にAMSAから10名の医学部生を大学の協定校とは別に独自で受け入れる予定です。海外から千葉大へ来る学生の窓口であり、なおかつ千葉大から世界へ羽ばたく際の足掛かりでもある。それが世界医療の存在意義だと思います。今後とも応援の程、よろしくお願いいたします。



平成28年度のインジェ大学からの留学生とのご飯会

男子硬式庭球部

医学部4年 主将 貫井 聖人

男子硬式庭球部は部員の多い部活です。現在の部員数は男子だけで医学部43名、薬学部12名、看護学部1名、計56名の大所帯となっています。部員は元々経験者も多いのですが毎年初心者で入部してくれる新入生も多く、経験者と初心者でお互いに刺激し合いながら日々練習に励んでいます。

普段の練習は水曜日の朝と土曜日の午後に全体練習を行っています。全体練習では基礎的な球出し練習と試合を意識した対人練習の

両方でフットワークとミスのない確率の良いテニスを目指して練習しています。さらに、月曜日の夜と金曜日の朝に男子レギュラー練習を行っていて、より実践を意識したラリーの練習や、サブライターの練習をお互いにアドバイスしながら行っています。普段の練習以外にも、キャンパス内のコートをいつでも使わせていただける環境にあるので、部員同士で自主練をしたり、部員同士で試合を行うこととお互いを高め合っています。



春季蒼庭会(OB会)集合写真

す。
 主な年間の活動内容です
 が、公式戦である関東医科
 歯科リーグ(5月~7月)や
 東日本医科学学生総合体育大
 会(8月)で良い成績を取め
 ることを目標に日々研鑽し
 ています。また、11月には

福島県立医科大学と、3月には金沢大学医学部との対抗戦を行ってテニスを通して他大学との交流を深めています。男子部では、2月に西千葉キャンパスの全学の部活との交流戦なども行っています。OBの先生方との交流も深く、1月にはOB現役対抗戦なども行い先生方にご指導していただいています。また、新年会や卒業生のための追いかコン、一年間幹部をやり切った部員をねぎらう幹部交代式などテニス以外の行事ではオンとオフを切り替えて部員一同仲良く活動しています。

女子硬式庭球部

女子硬式庭球部には現在医学部23名、看護学部24名、薬学部22名の計69名の部員が所属しております。そのうち医学部20名、看護学部16名、薬学部17名の計53名が現在現役として日々切磋琢磨しており、男子硬式庭球部と合わせると、1200人を越える大変規模の大きな団体です。
 全体としての練習は、毎週火曜日の朝と土曜日の午前に行っており、基本的な球出し練から、試合を想定

した実践的なメニューまで幅広く練習しています。練習の間には皆アドバイスを活発に行い、テニスに真剣に向き合っています。練習の前後にはトレーニングも行っており、テニスの実力向上を目標に、体幹や瞬発力を鍛えています。さらに、医学部レギュラーは毎週月曜日と木曜日にも朝練を行っています。どうしたら試合で勝てるか、どのように実践的なメニューで練習しているか、全体練と比べて小規模で行っているの

医学部4年 主将 金子 優花

習しています。全体練と比べて小規模で行っているの
 で、自分自身だけでなくお互いのテニスも見つめやすくメンバーの苦手なところ、うまいかない所を重点的に補強しています。また、試合は医学部看護学部薬学部それぞれ学部ごとに開催されているので、リーグや東日本医科学学生総合体育大会などの公式戦の多い時期には、さらに各学部ごとに一層強化しております。
 公式戦のシーズンが過ぎたところ、毎年11月には福島県立医科大学硬式庭球部と、3月には金沢大学医学部硬式庭球部との対抗戦を行っております。1年ごとに相手のコートと自校のコートを行き来して、昨年度は11月に福島県へ赴き、3月には千葉にて金沢大学医学部をお招き致しました。2日間試合を行い、テニスというスポーツを通して、他大学の医学生、看護学生と交流を深めます。普段は勝利にこだわって試合にのぞんでいますが、これらの交流戦では年に一回仲間と会えるのが非常に楽しみです、こちらも部員たちにとって大変貴重な行事です。
 最後にありますが、女子硬式庭球部は多くの方に支

役員 貫井 聖人
 主将 立林 卓
 内務 細田 航平
 外務 小松 達矢
 布施 宏樹

えられて、日々活動を行っております。ありがとうございます。皆様のご厚意に少しでも応えられるよう、今後より一層研鑽してまいりますので、これからも
 応援よろしくお願い致します。

役員 金子 優花
 主将 久保田 姫子
 外務 野田 万里子
 内務

東日本医科学学生硬式庭球大会応援旗贈呈式



同窓会員著書の紹介

根岸 敬矩(昭39) 著 第五歌集「折々の日記哥」

弘報印刷機出版センター

伊藤 晴夫(昭39)



根岸敬矩氏は千葉大学医学部を卒業後、千葉大学の精神医学(当時は精神神経医学)教室に入局しました。その後千葉県精神保健福祉当時は精神衛生センター、国立精神保健(当時は精神衛生)研究所(児童部)、国立国府台病院(精神科)、山形大学医学部精神医学教室、埼玉県立小児医療センター(精神科)、埼玉県精神医療当時は精神保健総合センター、茨城県立医療大学(医学部学センター)と大学や研究所、病院などの勤務を経て、現在では地元の精神科医療に従事の傍ら、近隣の学校の「教育相談」、地域の保健所の「子どもの心の健康相談」、子育て支援活動(ピノキオくらぶ)などに関与して、地域の教育から精神保

本歌集の目次から分かるように、前半の3章は、平成23年3月11日(2011年)の東日本大震災に大きなショックを受け、「いま自分は何をすべきか、何ができるのか?」などと自問しながら殆ど無意識のうちに(一日一首を目指し、3月から9月ごろまでの半年間)短歌創作に没頭していた往時の作品群だそう。しかも、この体験が、その後の短歌創作目標の一つの転換になったとのこと。前半の章の作品の中から、特に秀逸と思われる一首を書き出します。

後半の4章から6章までは、精神科医としての日々の診療場面などから詠い続けられた短歌をまとめられた作品群と思われ。これら一連の短歌には、精神科医として、長年の精神医療や地域の精神保健活動(教育相談や保健所のこころの健康相談など)を通して、出会った多くの人たち(こころ悩み、病む当事者やその家族関係者ら)への熱い、厚い思いなどを詠い込みながら、その背景に見え隠れする現代の「病的社会

の問題」を浮き彫りにしようとする意図が、ひとつ一つの短歌「三十一文字」の根底に秘められているのだと痛感いたしました。評者がこの歌集に宜なるかななどと大いに共感共鳴したのはこの視点にあります。後半の章のこれらのことを集大成されたと思われる一首を書き出します。

最後に、評者の印象に深く残った三首(診療カルテより)を紹介いたします。

福島より
避難入院の老女診る
転院くりかへし
埼玉にさしとう
惚けぬれし
老女に添ひしはらからも
県外避難の原発被害者
入院後一か月もせずして
老女逝く
筆雀(よしきり)のこゑ
ひびく夕暮れ

発展を確実なものにしようとしています。タイトル「見天地人」は恩師の香月秀雄先生が自身の業績集の巻頭として書いていただいた書から執りました。私の医師として、人間としての精神的な根幹を形成してくれた言葉の1つです。

人にも組織にも良い時もあれば悪い時もあります。母校にも耳を疑うような、あつてはならないことが報道されています。OBの一人としては憤怒に耐えませんが、事実から目をそらすことなく学生も職員もこの難局を乗り越えていっていただきたいと考えます。今は過去からの連続で変えることは出来ませんが明日からの将来は自らの意思でつくり上げていく物です。本書に将来の大きな可能性のある本学の若い学生や医師への期待のメッセージも込めたつもりです。何らかの役に立てれば幸いです。

藤澤 武彦(昭42) 著
見天地人
医療 現在と未来を見つめて
千葉日報社
定価1600円(税別)



本書は私がちば県民保健予防財団の理事長に就任して十年の中で、財団に関わった人々とともに働き、ともに考えたことを纏めたものです。纏めてみて十年という年月は長いようで短くもあり、短いようで長くもありました。この十年にお

ける社会の変化は激しく、検診に関連する法律、制度などが改正や変更がなされ、そのたびに検診機関も大きな変革の波に襲われてきました。その一つひとつを解決すべく、役員全員で事に当たりました。2010年ころより少しずつ経営が安定し、2012年4月には調査研究センターを立ち上げて、公益財団法人に移行しました。2015年4月には第2期5カ年基本計画を策定し、更に安定的な

今までの予防医学事業の十年を纏めるといふ作業を通して、財団の将来や千葉県の特長を考える機会ともなりました。そして何より、故郷で両親に育てられ、三水第二小・中学校、長野高校、千葉大学医学部、そして医学部附属病院と人生を歩んできて、今この財団で予防医学を実践している理由が明確に認識できたこと、すなわち人生のどの時点で今この自分の存在に大きな

これからの十年はこれまでの十年より更に急速に変わっていくことでしょう。どんなに社会や環境が変わっていても、財団の精神的根幹となる精度やマナーなどは絶対変えてはいけないもの、それは堅持しつつも、変えてもいいものは拘りを持たずにその変化に適応しながら変えていく柔軟性と順応性を持ちたいと考えています。継続の中でも常に創意工夫を忘れないことが組織にも個人にも求められてい

るものと考えています。千葉県県のポテンシャルを持つてすれば、予防医学を充実させ健康寿命を延ばし日本一の健康長寿県になることが可能であると信じます。

その目的のために今後も公益財団法人としての責務を全うしてまいります。ご一読いただき、ご批判頂ければ幸いです。

大場 敏明(昭48) 著 ドクター大場の未病対策Q&A

健康であるために知っておきたい86のこと

幻冬舎ルネッサンス新書 定価800円(税込)

大場 敏明(昭48)



私が18年間担当していた全国商工新聞の医療相談コーナーのまとめです。

「未病」とは、健康と病気の境目で、疾患予備軍や軽症の生活習慣病対策の概念です。

今、病気の予防として、注目を浴びつつあるもので、相談コーナーでも様々な相談がありました。自分の体験も含めて、健康法・予防法・養生法など、触れていきます。職員の推薦の言葉でも「読みやすい、患者さん・利用者さんへの対応でも参考になる」「大場先生の普段の丁寧な診療がそのまま本」との評判を頂いております。

一読者の推薦「町医者40年の経験が読みやすく盛り込まれており、日常の医療あるいは受診の一端になうことも期待できる。」とあります。同窓の皆さんはじめ多くの方にご一読お願いいたします。

***幻冬舎ルネッサンス新書 内容紹介より**

「町医者」として40年余、数々の健康相談のつてきた医師が、体の不調を正しく判断し対処する方法を解説。「未病」の段階で不安を解消し、健康的な生活を送るためにすべきことは何か。痛みや腫れ、発熱などの日常的に起こり得る症状について考えられる原因、アドバイスをまとめた一冊。長年の悩みや不安を解決する糸口が見つかるかも。

近藤 克則(昭58) 著 健康格差社会への処方箋

医学書院 定価2700円(税込)

近藤 克則(昭58)



「健康格差」という言葉をご存じだろうか。低所得や教育年数が短い集団ほど健康状態が悪い現象を指す。それは認知症を伴う認定が4倍以上多いまちなど地域間にも見られる。この健康格差が、日本にも見られること、その生成プロセスの理論仮説群を示し、「対処しなくて良いのか」と、世に問うたのが拙著「健康格差社会何が心と健康を蝕むのか」(医学書院2005)であった。同書で社会政策学会賞(奨励賞)をいただいた。

その後、この言葉は「NHKスペシャル」や「週刊東洋経済」の特集テーマになるほどに、一般的な用語になってしまった。多くの人が体感するようになってしまったからである。だからWHO総会決議(2009)や厚生労働省告示(2012)で「健康格差はある」と公認され、その「縮小を目指す」と政策目標に掲げられた。となると、どうすれば縮小できるのかを解明しなければならぬ。「健康格差社会への処方箋(対策)」を前著の出版後の研究成果を踏まえ論じたのが本書である。

的確な「処方箋」に必要なのは、どのようにして健康格差は生まれるのかの解明である。前著で示した格差拡大による慢性的ストレス蓄積と、ソーシャルキャピタル(人々のつながり)の毀損などに加え、第一部「病理」編で、生育環境から高年齢に至るライフコースや職業性ストレスの環境要因が、遺伝子と同じくらいに健康に影響することを述べた。第二部「価値判断」編では、歴史から「遅ればせの教訓」を学び、社会政策の拡充を図るべきことを考察した。そして第三部で、ミクロ(臨床・個人)・メゾ(コミュニティ)・マクロ(国)レベルの「処方箋」をエビデンスに基づきながら示した。その中で、今後強化されるべきポピュレーション戦略の具体例として、取り組んで来た地域介入研究や、国の地域包括ケア「見える化」システムのプロトタイプ、「健康格差対策の7原則」も紹介した。

Amazonのレビューで5つ星がついた。多くの方にぜひ手に取っていただきたい一冊である。

松永 正訓(昭62) 著 呼吸器の子

現代書館

定価1600円(税別)

松永 正訓(昭62)



「将来に展望がない」「自宅に孤立」。そんな言葉ではないでしょうか？

ところが少年の母親は「在宅での人工呼吸器の生活が楽しい」と言います。本当にかと私は疑問に思い、その言葉に吸い寄せられるように、少年の自宅へ繰り返し通いました。家族の言葉に耳を傾け、行動を共にさせてもらったのです。すると多くのことが見えてきました。

私が出会った少年は、先天性難病「ゴーシェ病・急性神経型」のために2年の命とされています。代謝異常のために糖脂質が分解できず脳に蓄積し、精神発達が滞り呼吸が止まるからです。生後9カ月で気管切開を受け、1歳6カ月で人工呼吸器を付けて自宅で暮らすようになりました。そして少年は現在14歳にまで成長しています。重い脳の障害に加え、抗けいれん薬を多種類使っているため、ほとんどの時間眠ったような状態にあります。

彼の周りにはたくさんの方が集まります。入浴介助のヘルパー。訪問看護師。ボランティアで往診に来る医師。特別支援学校の教師。訪問理学療法士。ソーシャルワーカー。そして、家族は頻繁に出かけます。病院への定期受診。家族会。障害児の美術展。特別支援学

校への通学。デイズニードへの修学旅行。ショートステイ。家族旅行。少年と家族は、多くの人と交わり、社会に溶けあっていることを私は知りました。

本書は、重度障害児を家庭に持ちながらも、家族は自分たちが望むような生き方を選び、生活を構築できることを描いています。

また、本書を執筆中に、相模原障害者施設殺傷事件が起こりました。この事件は、私たちに多くのことを問いかけているように思えます。最重度の障害者を選んで殺傷した犯人の動機には優生思想が含まれていました。しかし、犯人の「障害者は死んでくれた方がいい」という思考に通じるものがないかどうか、私たちは自問自答しなくてはならないのではないのでしょうか。

この犯人は「障害者是不幸を作ることしかできない」とも言っています。だからこそ本書を通じて、障害児がどう生きていくのか、家族がどうやって楽しい毎日を過ごすことができるようになったのかを多くの人に知って欲しいと願っています。同窓のみならず、ぜひ本書を手にとってください。ようお願い申し上げます。

平成29年度 第1回常任理事会議事要旨抜粋

日 時：平成29年4月19日 (水) 18時より
場 所：東京ステーション
コンファレンス

出席者

- 濟陽高穂 (会長)
- 吉川広和 (副会長)
- 吉原俊雄 (副会長)
- 鈴木信夫 (副会長)
- 税所宏光 (参与)
- 青木 謹 石川詔雄
- 伊藤達雄 岡本和久
- 小野田昌一 黒木春郎
- 崎尾秀彰 白澤 浩
- 鈴木 守 田邊政裕
- 十川康弘 中村真人
- 忍頂寺紀彰 幡野雅彦
- 花輪孝雄 (敬称略)

濟陽高穂会長の挨拶の後、同会長が座長となり議事が進められた。

議 題

1. 報告事項

(1) 広報編集関係

白澤浩理事より、今回のものは同窓会報は平成29年5月9日発送予定であることが報告された。

2. 協議事項

(1) 名誉会員の推薦について

白澤浩理事より、名誉会
員推薦に関する内規に則り

名誉会員として千葉県の
はな会より阿部一憲氏(昭
39)、東京のはな会より矢
端幸夫氏(昭46)、神奈川
のはな会より西川哲男氏(昭
47)3名の推薦があり、3名
を候補者として総会に諮る
ことが承認された。

(2) 会則改定について

吉原俊雄副会長より会則
改定について説明があった。
第7条 原則として都道
府県単位以上とする各地方
支部について、県内にある
少人数の支部も活発に活動
しており、その存在にも配
慮が欲しいとの意見があり
今後の検討課題とした。第
7章会議について総会での
説明のために組織図を用意
することとした。この会則
改定案を総会に諮ることが
承認された。

(3) 平成29年度役員選出につ

いて
白澤理事より、会則改定
の承認に伴った新理事につ
いて、各支部へ問合せ中で
あることが説明され、各支
部推薦の理事を総会にて承

認することが了承された。
役員については会長・副会
長・参与は継続であるが、
会計監事の田中光氏退任の
ため岩倉弘毅氏を後任とし
て推薦することとし、この
役員案が承認された。

(4) 平成28年度決算

① 決算報告
幡野雅彦理事より、収入
についてはほぼ予算どおり
であり、一般寄附金、雑入
が予算を上回り、建設資金
は今年度の使用はないこと、
支出については、総務費は
予算内に収まっており、事
業費は白衣式助成が学生の
定員数増加のため、ちばB
C R C 支援はメダルに「あ
のはな同窓会長賞」の刻印
代、同窓サポートプロジェ
クト経費は記念メダル作成
代、ホームカミングデー開
催経費等の支出が予算を超
えた事が説明され、平成28
年度の決算報告が承認され
た。

② 会計監査

白澤理事より、田中光会
計監事、秋葉哲生会計監事
の監査結果について会計処
理が適正である旨、報告さ
れた。

(5) 平成29年度事業計画

白澤理事より、同窓会員
組織の充実として会則の改
定、同窓会会員名簿の作製
2018年版(3年毎)に作

製)、その他は例年の事業計
画と変わらない事等が説明
され、了承された。

(6) 平成29年度予算

幡野理事より、収入につ
いては昨年同様の予算額を
計上し、基金より同窓会館
関連施設の設立準備金とし
て昨年度の使用はなかった
が、29年度も300万円を
計上、支出については、理
事会費を増額、白衣式助成
金を学生の定員数増加によ
り増額、ちばB C R C 支援
「あのはな同窓会長賞」のメ
ダル刻印代を増額、同窓サ
ポート・プロジェクトは記
念メダルの初期の金型作成
代等がないので減額、支部
支援費を増額、また千葉大
学国際教養学部見城悌治氏
の著書「近代日本で学んだ
留学生の「日本」認識と帰
国後の活動」―医薬・園芸・
デザイン・師範分野を中心
に―出版支援について説明
があり、同窓会より支援す
る事とした。同窓会活性化
経費「出版支援」として30
万円を計上、東医体準備金
として100万円を積立て
る事が説明され平成29年度
予算が承認された。

(7) あのはな同窓会賞選考結

果
白澤理事より、推挙され
た候補者を選考委員会にて
検討した結果、功労賞に守

屋秀繁氏(昭42)が候補者と
して推薦された旨の報告が
あり、承認された。

(8) 総会議題等について

白澤理事より、平成29年
度あのはな同窓会総会は、
大学の担当で平成29年6月
10日に千葉大学附属亥鼻分
館ライブラリーホールにて
開催することが説明された。
特別講演には守屋秀繁氏に
「横綱審議委員長を終わっ
て」の講演を依頼しており、
懇親会はあのはな同窓会館
にて開催。懇親会の内容に
ついては、千葉県あのはな
会の若手の先生方に依頼し
ている事が説明された。

(9) あのはな同窓会誌発行企

画
鈴木信夫副会長よりあのは
な同窓会誌発行企画の検
討について現状報告があっ
た。

(10) あのはな同窓会館関連施

設設立(メモリアルウォー
ル)
あのはな同窓会館関連施
設設立については、活性化
委員会、活性化WGにて今
後の検討を行っていく事が
提案され、承認された。

(11) その他

・黒木春郎理事から千葉県
あのはな会にて「次世代リ
ーダー育成海外留学奨学生
制度を立ち上げ、今年度か
ら進めている事が説明され

た。今後は同窓会全体とし
てこの制度を続けていく事
ができるよう大学と議論を
続けながら、活性化WGに
て検討する事とした。
・43年卒のクラスから、卒
後50周年記念として同窓会

平成29年度 あのはな同窓会総会議事要旨

日 時：平成29年6月10日
(土) 15時より
場 所：千葉大学附属図書
館亥鼻分館3階ラ
イブラリーホール

出席者：27名
委任状：650名

濟陽高穂会長の辞により
開会となり、まず物故者1
29名に黙祷を捧げた。白
澤浩理事の司会により濟陽
高穂会長の挨拶の後、同会
長が議長に選出され議事が
進められた。

議 事

(1) 名誉会員の推薦について

白澤理事より、内規に基
づき推挙された阿部一憲氏
(昭39)、矢端幸夫氏(昭46)、
西川哲男氏(昭47)、3名の
名誉会員の推薦について説
明があり、承認された。

(2) 年次活動について(報告事

項)
①庶務部報告

への寄附希望があり、今後
50周年を迎えるクラスから
も寄附が集まる継続的な基
金としてほしいとの提案が
あり承認された。名称、基
金の使途については活性化
WGにて検討する事とした。

白澤理事より、平成28年
度の各会議開催や各支部と
の交流等について報告され
た。

② 事業部報告

同理事より、同窓会賞の
授与、同窓会報の発行、同
窓サポート・プロジェクト
等について報告された。

(3) 平成28年度決算について

① 決算報告
幡野雅彦理事より、収入
については、会費収入はほ
ぼ予算どおりであり、事業
収入、一般寄附金が増額と
なった。支出については、
ほぼ例年通り執行されてい
るが、白衣式助成では学生
の定員が増加したため、ち
ばB C R C(学生の基礎・臨
床の研究発表支援ではメダ
ルの刻印代、同窓サポート
プロジェクトではメダルの
金型代、ホームカミングデ
イでの支出等で予算を超え
たとの説明があった。以上
の報告により平成28年度の

決算報告が承認された。

② 監査報告

白澤理事より、秋葉哲生会計監事、田中光会計監事の監査報告について説明があり、決算案が承認された。

(4)平成29年度事業計画について

白澤理事より、会報発行、各地域ののはな会への支援、各地域ののはな会(会員)・本部間の交流、研究・教育助成、IT広報関連事業、

設立計画、同窓会館関連施設の充実(会則改定)、同窓会会員名簿(2018年版、2017年10月発行)、同窓サポート・プロジェクト、について説明があり承認された。

(5)平成29年度予算案について

幡野理事より、収入については、ほぼ前年と同じであること、支出については、教育助成金より白衣式助成、「ちばBCRC」支援、支部活性化事業費を増額、同窓サポート・プロジェクトは卒後50周年記念としての記念メダル金型代費用が本年は不要のため減額、積立金として東医体の準備金を計上すること等が説明され、承認された。

(6)会則改定について

吉原俊雄副会長より会則改定は、常任理事会を理事

会とすることを前提としており、改定した点についての説明があった。

第3条 「広く」を加えて

広く医道の昂揚に努めることを目的とする。

第4条 常任理事会の常任

をはずし、理事会とする(以降もすべて常任をはずし理事とする)。

第6条 不祥事や同窓会の

名誉を著しく傷つけた会員にたいして除名処分可能とする条項を追加するが、表現を少し考慮するよう意見を募る。

第7条 「原則都道府県を基

幹とする各地方の会員および千葉大学の会員による支部を組織し」と、修正する。

第9条 役員については、

従前の理事120名は解散とする。常任理事を理事として、現在、理事が不在の7支部からも選出のため、理事30名以内を40名以内と変更する。

第21条 会議5種は、

- 1. 通常総会
2. 臨時総会
3. 評議員会
4. 理事会
5. 総務会 とする。

第22条 総務会の位置づけ

を明記する。

第27条 「千葉大学医学部

院長は理事会に出席し意見

を述べる事ができる。但し議決には加わらない。」と追記する。

以上のような会則改定が

承認された。

(7)役員の選出について

白澤理事より現役員の任期(2年)満了に伴う新役員の選出についての説明があった。

①会長・副会長・会計監事・

参与 会長、副会長、参与は再任、会計監事は田中光氏が退任、岩倉弘毅氏を後任とすることが承認された。

②理事

各地区ののはな会より新たに選出された理事 諏訪敏一氏 石川詔雄氏 小林道生氏 中島 透氏 赤倉功一郎氏 横須賀忠氏 諏訪園靖氏

7名が承認された。

地区ののはな会理事の定員については流動的である。理事の選出がない地区ののはな会については、活動状況等を確認し候補者の有無についての問合せをする。

③評議員

評議員については、以前に調査し再編成されたメンバーについて承認された。以上の説明により役員の案が承認された。

今後の検討事項

・会長、副会長辞任後の立

場について。

・評議員不在の学年、評議員定年制の問題について。

伊藤達雄理事の辞により、閉会となった。

の は な 同 窓 会 賞 伝 達 式

白澤理事の司会により、功労賞受賞者守屋秀繁氏の表彰式が行われた。済陽会長より表彰盾と副賞が授与された。

特別講演

済陽会長の司会により、守屋秀繁氏(千葉大学名誉教授)が「横綱審議委員長を終わって」と題して講演された。

懇親会

白澤理事の司会により開会された。済陽会長の挨拶に続き、徳久剛史学長より乾杯ご発声、若手医師によるプレゼンが行われた。歓談の時を過ごし、閉会となった。



平成29年度 評議員 85名

Table with 4 columns: 卒年, 氏名, 卒年, 氏名. Lists 85 members with their birth years and names.

平成29年度 役員

Table with 2 columns: 役職, 氏名. Lists officers including 会長, 副会長, 会計監事, 参与, and 理事.

敬称略

平成29年度予算

平成28年度決算報告

Table with 2 columns: 収入の部 (Income), 款項目 (Item), 予算額(円) (Budgeted amount in yen). Rows include 会費等, 事業収入, 他会計より受入, etc.

Table with 4 columns: 収入の部 (Income), 款項目 (Item), 予算額(円) (Budgeted amount in yen), 決算額(円) (Actual amount in yen), 対予算額(円) (Difference from budget in yen). Rows include 会費等, 事業収入, etc.

Table with 2 columns: 支出の部 (Expenditure), 款項目(節) (Item/Section), 予算額(円) (Budgeted amount in yen). Rows include 総務費, 事業費, 法人税等, etc.

Table with 4 columns: 支出の部 (Expenditure), 款項目 (Item), 予算額(円) (Budgeted amount in yen), 決算額(円) (Actual amount in yen), 対予算額(円) (Difference from budget in yen). Rows include 総務費, 事業費, etc.

註1～5：収入、支出の主要細目等

Table with 5 columns: 収入の部 (Income), 支出の部 (Expenditure), 款項目 (Item), 29年度予算 (29th year budget), 28年度予算 (28th year budget). Includes detailed breakdowns for items like 事業収入 and 総務費.

千葉大学みのはな同窓会会則（新旧対照表）

Table with 2 columns: 旧 (Old) and 新 (New). Compares the old and new versions of the association's regulations, including articles on the name, purpose, membership, and fees.

旧	新
第5章 支 部	第5章 支 部
第6条 各地方の会員は地方支部を組織し、本会の事業に参画することができる。支部を結成したときは代表者を定め支部規則を付し本会に届出るものとする。	第7条 原則として、都道府県の単位以上とする各地方の会員および千葉大学の会員はそれぞれの支部を組織し、本会の事業に参画することができる。支部を結成したときは代表者を定め本会に届出るものとする。
第7条 各支部は本会の <u>理事及び評議員</u> を推薦することができる。	第8条 各支部は本会の <u>理事</u> を推薦することができる。
第6章 役 員	第6章 役 員
第8条 本会に次の役員をおく。 会長1名・副会長3名・参与3名・理事120名・常任理事30名以内・評議員130名以内・監事2名	第9条 本会に次の役員をおく。 会長1名・副会長3名・参与3名・ 理事40名 以内・評議員130名以内・監事2名
第9条 会長、副会長、参与は総会において選出する。	第10条 会長、副会長、参与は総会において選出する。
第10条 会長は本会を代表し、総会、常任理事会の決定、会則に従い会務を総理する。	第11条 会長は本会を代表し、総会、 理事会 の決定、会則に従い会務を総理する。
第11条 副会長、参与は会長を補佐し会務を分担する。会長事故あるときは副会長がその職務を代行する。	第12条 副会長、参与は会長を補佐し会務を分担する。会長に事故あるときは副会長がその職務を代行する。
第12条 理事は各支部および医学部・医学研究院・医学部附属病院の会員の推薦に基づき総会の承認により決定する。 <u>理事は互選により常任理事を選出し、常任理事とともに会務に参画する。</u>	第13条 理事は各支部の推薦に基づき総会の承認により決定する。
第13条 常任理事は、会長・副会長・参与と共に常任理事会を組織し、別途に定める会の重要事項を審議し決定する。	第14条 理事は、会長・副会長・参与と共に理事会を組織し、別途に定める会の重要事項を審議し決定する。
第14条 監事は総会において選出し、本会の財務運営につき監査を行う。	第15条 監事は総会において選出し、本会の財務運営につき監査を行う。
第15条 評議員は第12条前段に規定する各母体、各卒業年次クラス、および総会の推薦に基づき総会の承認により選出する。評議員は会の重要事項について会長の諮問に応じる。	第16条 評議員は理事会の推薦に基づき総会の承認により選出する。 評議員は会の重要事項について会長の諮問に応じる。
第16条 役員の任期は2年とする。但し再任を妨げない。	第17条 役員の任期は2年とする。但し再任を妨げない。
第17条 役員は任期終了後であっても後任者が就任するまでその職務を行うものとする。	第18条 役員は任期終了後であっても後任者が就任するまでその職務を行うものとする。
第18条 本会に名誉会長をおくことができる。名誉会長は本会会長として特に功績顕著であったものを総会において推薦する。	第19条 本会に名誉会長をおくことができる。名誉会長は本会会長として特に功績顕著であったものを総会において推薦する。
第19条 本会に顧問若干名をおくことができる。会長がこれを推薦する。顧問は会長の諮問に応ずる	第20条 本会に顧問若干名をおくことができる。会長がこれを推薦する。顧問は会長の諮問に応ずる。
第7章 会 議	第7章 会 議
第20条 会議を分けて次の五種とする。 1. 通常総会 2. 臨時総会 3. 評議員会 4. 理事会 5. 常任理事会	第21条 会議を分けて次の5種とする。 1. 通常総会 2. 臨時総会 3. 評議員会 4. 理事会 5. 総務会
第21条 会議は会長が召集し、議長は出席者より互選する。	第22条 会議は会長が召集し、議長は出席者より互選する。 総務会は、会長、副会長、参与、会務担当責任者及び会長の指名する若干名を以って構成する。総務会は一般会務の総合調整を図り、新規事業の企画の調整を行い、理事会に議案を提出する。なお、新規事業その他特別な案件については総務会の議を経て別途に委員会を設け企画・立案することができる。
第22条 各会議の議事は出席者の過半数をもってこれを決する。但し学生会員は議決に参加できない(註1参照)。なお、可否同数のときは議長が決する。	第23条 各会議の議事は出席者の過半数をもってこれを決する。但し学生会員は議決に参加できない(註1参照)。なお、可否同数のときは議長が決する。
第23条 通常総会は毎年1回これを開き、次の事項を審議する。 1. 会務報告 2. 予算および収支決算 3. 任期満了に伴う役員の改選及び欠員の補充 4. 規約の制定 5. その他常任理事会において必要と認めた事項	第24条 通常総会は毎年1回これを開き、次の事項を審議する。 1. 会務報告 2. 予算および収支決算 3. 任期満了に伴う役員の改選及び欠員の補充 4. 規約の制定 5. その他 理事会 において必要と認めた事項
第24条 臨時総会は理事会または常任理事会において必要と認められたほか、総会員5分の1以上より会議の目的である事項を示して要求のあった場合にこれを開く。	第25条 臨時総会は理事会において必要と認められたほか、総会員5分の1以上より会議の目的である事項を示して要求のあった場合にこれを開く。
第25条 評議員会は理事会において必要と認められたほか、評議員10名以上の要求によって臨時にこれを開くことができる。評議員会は、その決議により、会の臨時事業を発議提案することができる。	第26条 評議員会は理事会において必要と認められたほか、評議員10名以上の要求によって臨時にこれを開くことができる。評議員会は、その決議により、会の臨時事業を発議提案することができる。
第26条 常任理事会は原則として年三回開催し、過半数の出席をもって会の成立とする。但し委任状をもって出席に代えることができる。常任理事会は、会務全般につき随時報告を求め、第23条に規定する事項の外、会の重要事項について審議し決定する。この議決事項については速やかに会報に掲載する。	第27条 理事会は原則として年三回開催し、過半数の出席をもって会の成立とする。但し委任状をもって出席に代えることができる。理事会は、会務全般につき随時報告を求め、第24条に規定する事項の外、会の重要事項について審議し決定する。この議決事項については速やかに会報に掲載する。 千葉大学医学部長、千葉大学医学部附属病院長は理事会に出席し意見をのべることができる。但し議決には加わらない。
第27条 理事会は随時これを開き、総会と合同にて開催することができる。(削除)	第28条 本会の会務は総務会がこれを統轄する。 一般会務は次の3部に分け、会長が理事及び会員より指名す
第8章 会 務	第8章 会 務
第28条 本会の会務は総務会がこれを統轄する。 総務会は、会長、副会長、参与、会務担当責任者及び会長の	第28条 本会の会務は総務会がこれを統轄する。 一般会務は次の3部に分け、会長が理事及び会員より指名す

旧

指名する若干名を以って構成する。総務会は一般会務の総合調整を図り、新規事業の企画の調整を行い、常任理事会に議案を提出する。なお、新規事業その他特別な案件については総務会の議を経て別途に委員会を設け企画・立案することができる。

一般会務は次の3部に分け、会長が理事及び会員より指名する各部の責任者(会務担当責任者)及び委員に、これらの会務担当を委嘱する。

- 1. 庶務部 次の事項を処理する
 - (イ) 本会の会議ならびに議案議事の整理その他の記録一般に関する事項
 - (ロ) その他、他部に属さない一般会務に関する事項
 - (ハ) 会員の親睦と各支部との連絡調整に関する事項
(註2参照)

第9章 財 務

第29条 本会の資産は次のとおりとする。

- 1. 基本財産
 - (イ) 旧「みのはな会」より継承した別紙目録記載の財産(什器・書を除く)
 - (ロ) 基本財産としての積立金(基金)
- 2. 普通財産
 - (イ) 基金より生ずる利子
 - (ロ) 会費
 - (ハ) 会員の入会金
 - (ニ) 寄付金
 - (ホ) 歳計剰余金
 - (ヘ) その他の収入

第30条 本会の財産管理の方法は総会において定めるほか、常任理事会は総会の趣旨に従い別途に会計規則を定めることができる。但し基金その他の重要財産は郵便局、銀行、または金銭信託銀行に預け入れる。

第31条 基本財産の元本はこれを消費することができない。但し、評議員ならびに総会の決議を経てその一部を普通財産に編入することは差支えない。

第32条 本会の経費は普通財産をもってこれを支弁する。経費に余剰を生じたときは翌年度経費に繰越す。但し、常任理事会の決議を経てその一部もしくはその全部を基本財産に編入することができる。

第33条 特定の目的をもって募集した寄付金は特別会計とする。

第34条 本会の予算は総会の決議を経てこれを定め、決算は年度終了後2ヶ月以内に常任理事会の承認を経ることが必要である。

第35条 会員の入会金および会費は別表のとおりとする(註3参照)。会費は毎年4月に納付する。

入会金および会費は常任理事会の議決によって変更することができる。但し総会において承認を得ることとする。

第36条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第10章 附 則

第37条 本会会則は常任理事会の承認を経た後、総会において出席者の3分の2以上の同意を得なければ変更することができない。前項の場合書面または他の会員に委任して票決権を行使したものは出席者とみなす。

第38条 本会会則は昭和26年12月1日より施行する。(昭和30年11月、33年11月、37年7月、40年11月、43年7月、50年6月、56年6月、平成5年6月、6年6月、8年6月、11年6月、12年6月、15年6月、16年6月会則一部改定)

別 表

会 員	会 費	入 会 金
正会員	年 5,000円	5,000円
学生会員	年 1,000円	

註1 総会において学生会員は議長の許可を得て発言することができる。

註2 本会各支部と大学との緊密な連携を保ち、また、会員相互の親睦をはかるため、原則として年3回の親睦会(四金会)を開催する。(削除)

註3 現在在学中の学生会員の入会金納入については別途に経過措置を講ずる。

新

る各部の責任者(会務担当責任者)及び委員に、これらの会務担当を委嘱する。

- 1. 庶務部 次の事項を処理する。
 - (イ) 本会の会議ならびに議案議事の整理その他の記録一般に関する事項
 - (ロ) その他、他部に属さない一般会務に関する事項
 - (ハ) 会員の親睦と各支部および評議員会との連絡調整に関する事項

第9章 財 務

第29条 本会の資産は次のとおりとする。

- 1. 基本財産
 - (イ) 旧「みのはな会」より継承した別紙目録記載の財産(什器・書を除く)
 - (ロ) 基本財産としての積立金(基金)
- 2. 普通財産
 - (イ) 基金より生ずる利子
 - (ロ) 会費
 - (ハ) 会員の入会金
 - (ニ) 寄付金
 - (ホ) 歳計剰余金
 - (ヘ) その他の収入

第30条 本会の財産管理の方法は総会において定めるほか、理事会は総会の趣旨に従い別途に会計規則を定めることができる。但し基金その他の重要財産は郵便局、銀行、または金銭信託銀行に預け入れる。

第31条 基本財産の元本はこれを消費することができない。但し、評議員ならびに総会の決議を経てその一部を普通財産に編入することは差支えない。

第32条 本会の経費は普通財産をもってこれを支弁する。経費に余剰を生じたときは翌年度経費に繰越す。但し、理事会の決議を経てその一部もしくはその全部を基本財産に編入することができる。

第33条 特定の目的をもって募集した寄付金は特別会計とする。

第34条 本会の予算は総会の決議を経てこれを定め、決算は年度終了後2ヶ月以内に理事会の承認を経ることが必要である。

第35条 会員の入会金および会費は別表のとおりとする(註2参照)。会費は毎年4月に納付する。

入会金および会費は理事会の議決によって変更することができる。但し総会において承認を得ることとする。

第36条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第10章 附 則

第37条 本会会則は理事会の承認を経た後、総会において出席者の3分の2以上の同意を得なければ変更することができない。前項の場合書面または他の会員に委任して票決権を行使したものは出席者とみなす。

第38条 本会会則は昭和26年12月1日より施行する。(昭和30年11月、33年11月、37年7月、40年11月、43年7月、50年6月、56年6月、平成5年6月、6年6月、8年6月、11年6月、12年6月、15年6月、16年6月、29年6月会則一部改定)

別 表

会 員	会 費	入 会 金
正会員	年 5,000円	5,000円
学生会員	年 1,000円	

註1 総会において学生会員は議長の許可を得て発言することができる。

註2 現在在学中の学生会員の入会金納入については別途に経過措置を講ずる。

オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>



動画を主体とするオンライン会報では、多数の番組があります。そこで、総合目次と総合索引を閲覧目的にかなうようにご利用ください。この紹介面では、一つの閲覧方法例として、最近の亥鼻キャンパスの様子を閲覧することを目的としてみます。2016年夏以降の番組からとしてみます。まずは、キャンパス便りの欄を開いてみます。平成28年クリスマスコンサートと亥鼻祭2016が見られます。一方、クラス会・他大学等の欄では、亥鼻キャンパス施設見学がちよに会で、また、病院紹介欄では、417会の千葉大学医学部附属病院外来診療棟の見学会が見られます。なお、みのはな同窓会活動に関する番組としては、学年別のクラス会のみならず、亥鼻祭の模様や、学生会員、卒業生会員、教職員などの全会員参加型のホームカミングデー関連の番組をキャンパス便りの欄にて、配信しています。その上で、紙媒体であり年3回の配布のみであるみのはな同窓会報とは違い、時事刻々と変わる亥鼻キャンパスの状況を可能な限り動画配信しております。さらに、西千葉キャンパスの状況も配信できればと、キャンパス便りでは、フロンティア医工学センターの紹介番組などを掲載してあります。さらに、国際交流の視点から、キャンパスの様子を伺い知る番組も、作製されております。国際交流欄にある、中国留学生に関わる記念碑めぐり—千葉大学医学部と東北大学医学部の碑より—や、国際交流に貢献するウイルス学教室が、該当します。それでは、実際に、インターネット上で、オンライン会報と検索し、トップページにある各番組の表示の「映像を見る」をクリックしてください。

*本ページの動画はmp4形式です。ご覧になれない場合は、mp4対応のプレーヤーをインストールしてください。
*古い動画コンテンツの中には僅かですが専用の再生ソフトが必要な場合があります。

オンライン会報 総合目次

- ・病院紹介
- ・求人・求職
- ・同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介
- ・生涯学習講座
- ・インタビュー
- ・国際交流
- ・都道府県医師対策
- ・オンライン書庫
- ・同窓会
- ・クラス会・他大学等
- ・キャンパス便り
- ・福祉関連情報
- ・「ほっとひといき」ちば通信（千葉日報）
- ・協賛企業からのお知らせ

オンライン会報 総合索引

- ・氏名
- ・病院・医院・診療所

■ 病院紹介



千葉大学医学部附属病院

外来診療棟

(417会见学会より)

・見学会(その1) ▶映像を見る

・見学会(その2) ▶映像を見る

[2017.4.18掲載]

Mac/スマホ対応

オンライン会報用
QRコード®



■ 国際交流



中国留学生に関わる記念碑めぐり

—千葉大学医学部と

東北大学医学部の碑より—

・辛亥革命の碑 ▶映像を見る

・魯迅の碑 ▶映像を見る

[2017.2.10掲載]

Mac/スマホ対応



国際交流に貢献する分子ウイルス学教室

承德医学院からの留学生との懇談

～承德医学院創立70周年を記念して～

[2015.12.24掲載]

Mac/スマホ対応

■ クラス会・他大学等



NEW
ちよに会
昭和42年医学部卒業
50周年記念クラス会



417会(昭和41年入学ないし昭和
47年卒業クラス会)
平成29年1月22日(日)
於 ホテル ザ・マンハッタン
[2017.4.17掲載]

・亥鼻キャンパス施設見学 ▶ 映像を見る
・2017(平成29)年度ちよに会 ▶ 映像を見る
[2017.6.21掲載]
Mac/スマホ対応

Mac/スマホ対応
※閲覧には会員用IDとパスワード
が必要です。お持ちでない方は申
請ページをご覧ください。

■ キャンパス便り



平成28年 クリスマスコンサート
千葉大学みのはな音楽部
平成28年12月15(木)
於 千葉大学医学部附属病院 外来診療棟1階
[2017.3.1掲載]
Mac/スマホ対応



亥鼻祭 2016
One for all, all for one
第14回千葉大学医・薬・看護学部大学祭
日時：平成28年11月5、6日10時～16時
場所：千葉大学亥鼻キャンパス

- ・テント広場
出店：医学部水泳部 施設局 舞部 スキー部
硬式テニス部 卓球部 バレー部；ステージ：舞部 ▶ 映像を見る
- ・企画イベント
健康を勝ち取る ▶ 映像を見る
身体ふしぎ発見 消化体験アンビリーバポー
模擬医師になって ▶ 映像を見る
ぬいぐるみ病院 看護のススメ 応急救護
いづく ▶ 映像を見る
薬学部茶道部 みのはなおでかけくらぶ 東洋医学研究会
クラシックからポップス、アレンジに心休める ▶ 映像を見る
音楽喫茶
手わざで遊ぶ ▶ 映像を見る
KIDS 空想医学 マジックカフェ
あすを知り夢を一つに ▶ 映像を見る
若手医療者と語る 受験相談 大学病院臨床試験アライアンス
[2017.1.30掲載]
Mac/スマホ対応



One for all, all for one
—第14回亥鼻祭—
千葉大学医・薬・看護学部
大学祭
実行委員長 宇津野 瞳
▶ WEBサイト
[2016.10.24掲載]
Mac/スマホ対応



ホームカミングデー開催
2016年11月5日
(亥鼻祭初日)
10am-5pm
HAPPY HOUR
13:00-14:00
同窓会ブース：
みのはな同窓会館
[2016.10.6掲載]



フロンティア医工学センター
(西千葉キャンパス内)の紹介
五十嵐辰男
(千葉大学フロンティア医工
学センター長)

- ・フロンティア医工学センターの概要 ▶ 映像を見る
 - ・学術活動の状況 ▶ 映像を見る
 - ・実験現場の紹介 ▶ 映像を見る
- [2016.8.9掲載]
Mac/スマホ対応

おくやみ

- 永井友二郎(昭16¹²)
- 及川 貞(帝国女医専・昭17)
- 梶山 豊(昭18)
- 粟冠 正利(昭18)
- 星野 皓(昭18)
- 黒坂 文男(専20)
- 秋山 雅晴(大阪大附医専・昭20)
- 萩野 裕(昭21)
- 風戸 豊(東京医専・昭23)
- 岡田 宏一(専24)
- 片山 一郎(昭25)
- 井原 博(昭26)
- 黒田 陽三(昭26)
- 有馬 忠正(昭27)
- 住吉 孝男(昭27)
- 小田 博之(昭28)
- 川邊 兼美(昭28)
- 若杉幹太郎(昭28)
- 野澤陽一郎(昭30)
- 丸川 和太(昭30)
- 川名 悦郎(昭33)
- 露崎 輝夫(昭34)
- 小林 康弘(昭35)
- 重松 秀一(昭39)
- 那須野光政(昭39)
- 海老沼光治(昭40)
- 永井 公大(昭41)
- 宮内倉之助(昭42)
- 神原 彪(昭43)
- 芝入 正雄(昭46)
- 向井 稔(昭47)
- 今中 信弘(平5)

今年の夏は全国各地で記録的な長雨や豪雨に見舞われましたが、同窓会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。亥鼻キャンペーンでは例年の如く降るような蝉しぐれが聞かれませんでした。さて、お手元にお届けいたしましたのはな同窓会報第176号は、お馴染みの紙面構成ですが、40ページに及ぶ読み応えがある内容の会報になっていきます。6月に開催された平成29年度のはな同窓会総会の関連記事(会長挨拶、特別講演)や議事要旨(会則新旧対照表を含む)を掲載しております。

本会報は年3回(1月、5月、9月)発行されていますが、毎年9月

に発行される号では4月以降の人事異動で様々な組織のトップになられた先生方の就任挨拶(本号では18名)、春の叙勲感想(同2名)を掲載しております。諸先生方の素晴らしい業績と今後の抱負に感銘を受けました。また、他月号と同様に多くの各地(区)のはな会、クラス会から寄せられた集合写真入りの記事を掲載しております。クラス会を開催された折には是非とものはな同窓会報編集部にご連絡ください。

後半の紙面では、研修プログラム、研修病院紹介、研修医だより、学内情報、課外活動団体だより、会員から、雑文雑談、同窓会員著書の紹介

など、在学生、千葉大病院関連、同窓会員の幅広い活動をご紹介します。27ページには、昨年から母校に帰る日として始まりました「ホームカミングデー」のご案内を掲載しております(2017年11月5日の亥鼻祭開催日、同窓会館にて)。

また、会員の皆様に、特に若い先生に是非読んでいただきたい鼎談を目につきやすい24ページに掲載しております。

最後に動画を主体としたオンライン会報のご紹介をしております。様々なデジタルな情報が見られます。亥鼻のいまを是非ご覧ください。

松江弘之(昭62)

千葉医学雑誌93巻3号 2017年6月

最終講義
ミクロの世界のトキシンハンター
—細菌毒素の無毒化プロジェクト— 野田公俊

症例
がん終末期に、患者自身が適切に表現出来ない苦痛が、心不全兆候であった2症例
齊藤 理 石田智恵子 齊藤雅子 高山葉月 手塚絵莉子

エッセイ
地域包括ケアの現場から医学教育に思うこと 嶋下 博

学会
第1342回千葉医学会例会・臓器制御外科学教室談話会
第1344回千葉医学会例会・第16回呼吸器内科例会(第30回呼吸器内科同門会)

雑報
インフォームド・コンセントの実践 吉井 功

OAP要旨
超高齢者(95歳以上)の大腿骨近位部骨折の検討
輪湖 靖 中村順一 北崎 等 高澤 誠 新井 玄 宮本周一
三浦道明 大鳥精司 鈴木崇根 中嶋隆行 折田純久 高橋和久
松江弘之

編集後記
CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper
Original Paper
Survivorship of surgical and conservative treatment of hip fracture in patients 95 years old and older
Yasushi Wako, Junichi Nakamura, Hitoshi Kitazaki, Makoto Takazawa, Gen Arai Shuichi Miyamoto, Michiaki Miura, Seiji Ohtori, Takane Suzuki Takayuki Nakajima, Sumihisa Orita and Kazuhisa Takahashi

千葉医学雑誌93巻4号 2017年8月

最終講義
医工学への憧憬と彷徨 五十嵐辰男

展望
市中病院で研究は可能か? 西川哲男

原著
職場におけるうつ病スクリーニング後のインターネット認知行動療法の実施可能性に関する予備的研究
今泉良子 野口玲美 清水栄司

第八回千葉医学会奨励賞
重粒子線治療後に誘発された海綿状血管腫症例および骨肉腫症例の変異様式解明と新規原因遺伝子の探索
足立明彦 堀口健太郎 樋口佳則 松谷智郎 原 彩佳 久保田真彰 菊地 浩 岩立康男 神戸美千代 長谷川安都佐 小藤昌志 伊原史英 大熊雄介 堅田浩司 花澤豊行 岡本美孝

エッセイ
博士論文審査の主査について 高野光司
風に吹かれて ~全国無料出張講演の旅~ 野田公俊

学会
第1343回千葉医学会例会・平成28年度細胞治療内科学例会

OAP要旨
内視鏡外科手術における上肢の姿勢を保持する上肢用アシストスーツの開発
中島諒太 川平 洋 下村義弘 青木 圭郡司 久 林 秀樹 松原久裕
第5腰椎原発性腫瘍に対して、エクパンダブルケージを用いて前方再建を行い腫瘍椎体全切除術を施行した1例
海村朋孝 藤本和輝 折田純久 嶋田博人 山内かづ代 鈴木 都 稲毛一秀 佐藤 淳 志賀康浩 阿部幸喜 金元洋人 井上雅寛 木下英幸 國府田正雄 古矢丈雄 高橋和久 大鳥精司 羽田 明

編集後記
CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper
Original Paper
The surgical assist suit, a newly developed wearable device that does not interfere with surgeons performing laparoscopic surgery
Ryota Nakajima, Hiroshi Kawahira, Yoshihiro Shimomura, Kei Aoki Hisashi Gunji, Hideki Hayashi and Hisahiro Matsubara

Case Report
Total spondylectomy of L5 for a primary malignant tumor with anterior reconstruction using an expandable cage : a case report of effective treatment
Tomotaka Umimura, Kazuki Fujimoto, Sumihisa Orita, Hiroto Kamoda Kazuyo Yamauchi, Miyako Suzuki, Kazuhide Inage, Jun Sato Yasuhiro Shiga, Koki Abe, Hirohito Kanamoto, Masahiro Inoue Hideyuki Kinoshita, Masao Koda, Takeo Furuya Kazuhisa Takahashi and Seiji Ohtori